

「入院患者の家族等による付添いに関する実態調査等一式」委託事業

**入院患者の家族等による付添い
に関する実態調査等一式**

最終報告書

令和4年3月

株式会社シード・プランニング

目 次

第1章 調査概要	3
1. 調査の背景と目的	3
2. 調査の内容	3
3. 実施期間	6
第2章 調査結果サマリー	7
1. 病院調査票結果	7
2. 患者家族等調査票結果	8
第3章 病院調査票結果	9
1. 回答病院の属性	9
(1) 経営主体	
(2) 病床数	
(3) 入院患者数	
2. 入院患者の家族等による付添い状況	11
(1) 入院患者の家族等による付添い状況	
(2) 入院患者の家族等による付添いが可能な病棟	
(3) 患者家族等が付添いを行った入院患者数	
(4) 患者家族等が付添いを認めていない理由	
3. 小児・成人・高齢者の患者の家族等による付添い状況	16
(1) 病院側から家族等による付添いを依頼するケース	
(2) 入院患者または家族等から希望した場合、医師の許可を得て家族等が付添うケースについて	
(3) 入院患者または家族等から付添いを希望するも医師の許可が得られないケースについて	
4. 患者及び付添い家族等への説明状況	23
(1) 家族等の付添いについて説明するタイミング	
(2) 家族等に付添いについて説明する方法	
(3) 家族等に付添いについて説明する担当者	
(4) 家族等に付添いについて説明する内容	
(5) 家族等に付添いについて説明する内容に対する印象	
(6) 付添いについての説明に対する患者及び家族等の理解度	

- (7) 付添いについての説明に対する患者及び家族等の理解度の確認方法
- (8) 入院患者の家族等による付添いについて困っていることや課題（自由記述）

第4章 患者家族等調査票結果 28

1. 回答者属性 28

- (1) 入院患者との関係
- (2) 回答者の年代
- (3) 付添っている家族（患者）の年代

2. 現在家族（患者）が入院している病院での付添い状況 30

- (1) 現在家族（患者）が入院している病院を選んだ理由
- (2) 家族（患者）が入院している診療科
- (3) 家族（患者）の入院で付添いを始めたきっかけ
- (4) 病院から依頼された付添いの期間と付添いの経過期間
- (5) 家族（患者）の入院で付添いが必要な理由
- (6) 家族（患者）の入院で付き添いを行っている時間帯
- (7) 家族（患者）の入院での付添い体制
- (8) 家族（患者）の付添いに関する病院からの説明内容
- (9) 家族（患者）の付添いに関する病院からの説明が十分かどうか
- (10) 家族（患者）の付添いに関する病院からの説明に対する理解度
- (11) 家族（患者）の付添いにおける心配事や困っていること

3. これまでに家族（患者）が入院したことのある他の病院での付添いについて... 36

- (1) 家族（患者）の入院付添いを求められた経験の有無とその病院数
- (2) 家族（患者）の入院付添いを求められた理由
- (3) 家族（患者）の入院付添いを求められた際に困ったこと
- (4) 家族（患者）の入院付添いを断られた経験の有無
- (5) 家族（患者）の入院付添いを断られた理由

4. これまでに家族（患者）が入院したことがある全ての病院での付添いについて・ 39

- (1) 家族（患者）の入院付添いを希望しないにも関わらず付添いをした経験の有無
- (2) 病院から家族（患者）の入院付添いを求められたことや、付添いを希望したにもかかわらず断られた経験の有無
- (3) 書面により入院付添いに関する希望または同意署名等を行った経験の有無
- (4) 家族（患者）の入院付添いをしたいと思う場面
- (5) これまでに、ご家族（患者）の入院付添いにおいて困った経験

第1章 調査概要

1. 調査の背景と目的

健康保険制度上、保険医療機関における看護サービスの提供については、当該医療機関の看護要員により行うこととされており、入院患者に対して、患者の負担により、当該保険医療機関の従事者以外の者による看護を受けさせることは原則禁止とされているところである。

一方で、患者の病状により、または治療に対する理解が困難な小児患者や知的障害を有する患者等の場合は、医師の許可を得た上で、家族等、患者の負担によらない者が付添いを行うことができることとされている。

本業務では、入院患者の家族等による付添いに関する医療機関の取組等及び家族等の意識等を把握する調査・分析を行い、適切な付添いについて、必要に応じて次期診療報酬改定において検討するために実態調査を行った。

2. 調査の内容

(1) 調査対象・調査方法

< 病院調査 >

調査対象：全国の病院の中から都道府県別に大規模、中規模、小規模別に各2施設程度、層化無作為抽出法で300施設を抽出した。

調査方法：自記式の紙調査票を郵送で配布し、回収した。

< 患者家族等調査 >

調査対象：病院調査の対象病院300施設に令和3年9月20日～11月30日の期間で入院していた患者家族等、各10名を対象とした。

調査方法：病院調査の対象300施設に患者家族等調査票を各10票同封し、病院から各患者家族等へ配布を依頼した。回収においては患者家族等から同封の封筒にて返送を依頼した。

(2) 調査項目

調査項目は以下に準ずる。

【病院調査票】

項 目	調査項目
病院の概要	・ 経営主体 ・ 病床数 ・ 入院患者数
入院患者の家族等による付添い状況	・ 入院患者の家族等による付添い状況 ・ 付き添いが可能な病棟、病棟ごとの付添い有の入院患者数
小児の家族等による付添い状況	・ 病院側から家族等による付添いを依頼する場合の有無とその理由 ・ 入院患者または家族等から希望して付添いを行う場合の有無とその理由 ・ 入院患者または家族等から付添いを希望するも医師の許可が得られない場合の有無とその理由
成人の家族等による付添い状況	・ 病院側から家族等による付添いを依頼する場合の有無とその理由 ・ 入院患者または家族等から希望して付添いを行う場合の有無とその理由 ・ 入院患者または家族等から付添いを希望するも医師の許可が得られない場合の有無とその理由
高齢の家族等による付添い状況	・ 病院側から家族等による付添いを依頼する場合の有無とその理由 ・ 入院患者または家族等から希望して付添いを行う場合の有無とその理由 ・ 入院患者または家族等から付添いを希望するも医師の許可が得られない場合の有無とその理由
患者及び付添い家族等への説明状況	・ 家族等の付添いについて説明するタイミング ・ 家族等の付添いについて説明する方法 ・ 家族等の付添いについて説明する担当者 ・ 家族等の付添いについて説明する内容と患者家族等の納得度 ・ 患者または家族等の説明への理解度 ・ 患者または家族等の説明への理解度の確認方法 ・ (患者家族等の付添いを行っていない場合) その理由 ・ 入院患者の家族等による付添いについて、困っていることや課題

【患者家族等調査票】

項 目	調査項目
回答者の基本情報	・ 入院患者との関係 ・ 回答者の年代
付き添っている家族（患者）の概要	・ 付き添っている家族（患者）の年代
現在家族（患者）が入院している病院での付添いについて	・ 現在家族（患者）が入院している病院を選んだ理由 ・ 家族（患者）が入院している診療科 ・ 今回の家族（患者）の入院で付添いを始めたきっかけ ・ （病院からの依頼で付き添いを始めた場合）依頼された付添いの期間と実際に付添を行っている期間 ・ 今回の家族（患者）の入院で付添いが必要な理由 ・ 今回の家族（患者）の入院で付き添いを行っている時間帯 ・ 今回の家族（患者）の入院での付添い体制（交代で付添いをしているか） ・ 付添いに関する病院からの説明の内容と説明に対する納得度、理解度 ・ 今回の家族（患者）の付添いでの心配事や困っていること
これまでに家族（患者）が入院したことのある他の病院での付添いについて	・ 家族（患者）の付添いを求められた経験の有無とその理由 ・ 家族（患者）の付添いを求められた際に困ったこと ・ 家族（患者）の付添いを断られた経験の有無とその理由
これまでに家族（患者）が入院したことがある全ての病院での付添いについて	・ 家族（患者）の付添いを希望しないにも関わらず付添いをした経験の有無 ・ 病院から付添いを求められたことや、付添いを断られた経験の有無 ・ 書面により付添いに関する希望または同意署名等を行った経験の有無 ・ 家族（患者）の付添いをしたいと思う理由 ・ これまでに、ご家族（患者）の付添いにおいて困った経験

（３）回収状況

病院調査票は 300 件発送し、89 件の回答があったため、回収率は 29.7%であった。また、患者家族等調査票は 3000 件発送し、41 件の回答があったため、回収率は 1.37%であった。

【回収状況】

対象	発送件数	回収件数	回収率
病院	300 件	89 件	29.7%
患者家族	3000 件	41 件	1.37%

（令和 3 年 11 月 30 日時点）

なお、当初の調査票の回収期限は下記の通りであったが、回収率が低かったため令和 3 年 10 月 15 日から 10 月 24 日にかけて未回答病院 260 件への督促電話を行った。

督促電話の結果、入院付添いを実施していないことを理由に調査票の回答を辞退する病院が 17 件あった。

＜病院調査票＞令和 3 年 10 月 15 日

＜患者家族等調査票＞令和 3 年 10 月 22 日

３．調査期間

令和 3 年 10 月 1 日から令和 3 年 11 月 30 日まで

第2章 調査結果サマリー

1. 病院調査票結果

- 回答病院の 67.4% (n=60/89) で入院付添が実施されていた。
- 入院付添の病棟別の実施件数は小児科が多く、小児科病棟で1ヶ月の件数が100人を超える病院は23.3% (n=7/30) で、該当病院は1ヶ月の入院患者数が1000名を超えていた※。
- 病院側が家族等に付添いを依頼するケースは、小児は「患者の精神的な不安が強い場合」が、成人と高齢者は「(患者の) 容体の急変が考えられる場合」が最も多かった※。
- 患者家族等から希望して付添いを実施するケースは、小児・成人・高齢者の何れも「容体の急変が考えられる場合」が最も多く、8割を越えていた※。
- 患者家族等から付添いを希望するも医師の許可が得られないケースは、「感染症対策を行っている場合」に次いで「(患者の) 病状が安定している場合」が多かった※
- 病院が患者家族等に対し、付添いについて説明するタイミングは「入院中に、患者家族等から要望があった時」が81.0% (n=47/58) と最も多く、説明する方法は「説明書類を渡して、口頭でも説明している」が63.2% (n=36/57) と最も多かった。説明する担当者は看護職員が96.5% (n=55/57)、医師が63.2% (n=36/57) の順に多かった。また、説明する内容は、「付添い希望申請書の提出や同意書への署名の必要性」および「付添い可否」が91.1% (n=51/57) と最も多く、次いで「付添い条件(付添い可能なケース、人数、時間帯など)」が87.5% (n=49/57)、「病棟内で付添い家族が使用できる設備・貸与可能な物品(ベッド・お風呂など)」が80.4% (n=45/57) であった。
- 病院が患者家族等に対する付添いについての説明が十分かどうかについて、87.7% (n=50/57) が「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答し、説明に対する理解度についても98.2% (n=55/56) が「よく理解している」「まあ理解している」と回答していた。また、どの程度理解しているか確認する手段は「口頭で確認している」が46.3% (n=25/54) と最も多く、次いで「内容を確認・理解した旨の署名をもらっている」が37.0% (n=20/54) であった。

2. 患者家族等調査票結果

- 回答者の 69.2% (n=27/39) が小学生以下の小児患者の付添いで、64.1% (n=25/39) が「患者の母親」であった。付添いを始めたきっかけは「病院側からの依頼」が 53.8% (n=21/39)、「回答者自身の要望」が 38.5% (n=15/39)、「患者からの希望」17.9% (n=7/39) の順に多かった。また、付き添っている時間帯は「終日」が 74.4% (n=29/39) と最も多かった。
- 付添いが必要な理由は「(患者が) 乳幼児又は小学生以下だから」が 60.5% (n=23/38) と最も多く、次いで、病院アンケート調査結果において付添いを実施するケースとして回答が多かった「(患者の) 容体の急変が考えられるから」が 42.1% (n=16/38)、「患者の精神的不安が強いから」が 34.2% (n=13/38) であった。
- 付添いに関する病院側の説明が十分かどうかについては 89.5% (n=34/38) が「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答し、説明が理解できたかについては 97.4% (n=37/38) が「よく理解できた」「まあ理解できた」と回答していた。
- 付添いに関する病院からの説明に関して、上記の「十分であった」「理解できた」と回答した患者家族等が受けた説明内容は、「付添い希望申請書の提出や同意書への署名の必要性」、「病棟内で付添い家族が使用できる設備・貸与可能な物品(ベッド・お風呂など)」、「付添い家族の食事に関する情報」「付き添い条件(付添い可能なケース、人数、時間帯など)」が上位に挙がっていた。
- 付き添いにおける心配事や困っていることは、「十分な睡眠が取れない」が 52.9% (n=18/34) と最も多く、次いで「他の家族の世話ができない」の 47.1% (n=16/34) であった。

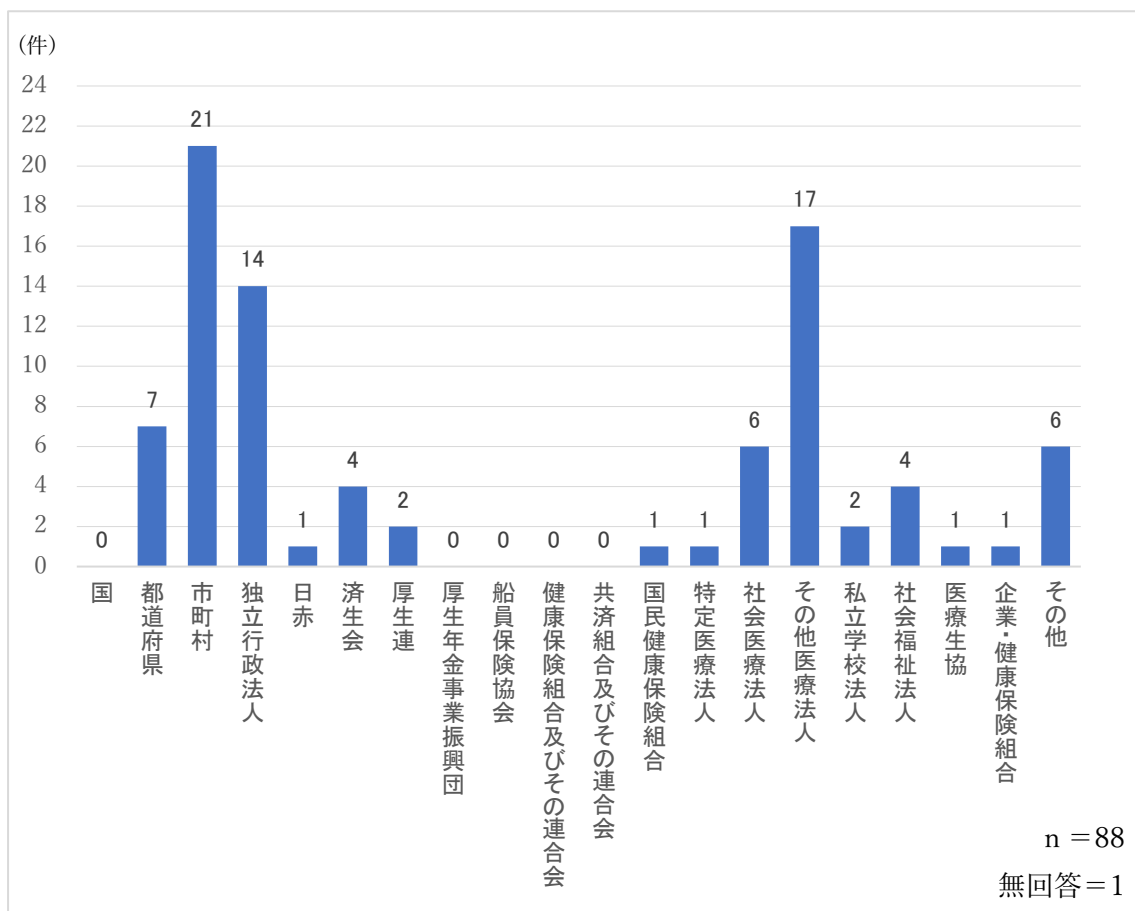
※令和 3 年 8 月の 1 か月間

第3章 病院調査票結果

1. 回答病院の属性

(1) 経営主体（単数回答）

回答病院の経営主体は「市町村」が21件（23.9%）と最も多く、次いで「その他医療法人」が17件（19.3%）、「独立行政法人」が14件（15.9%）であった。

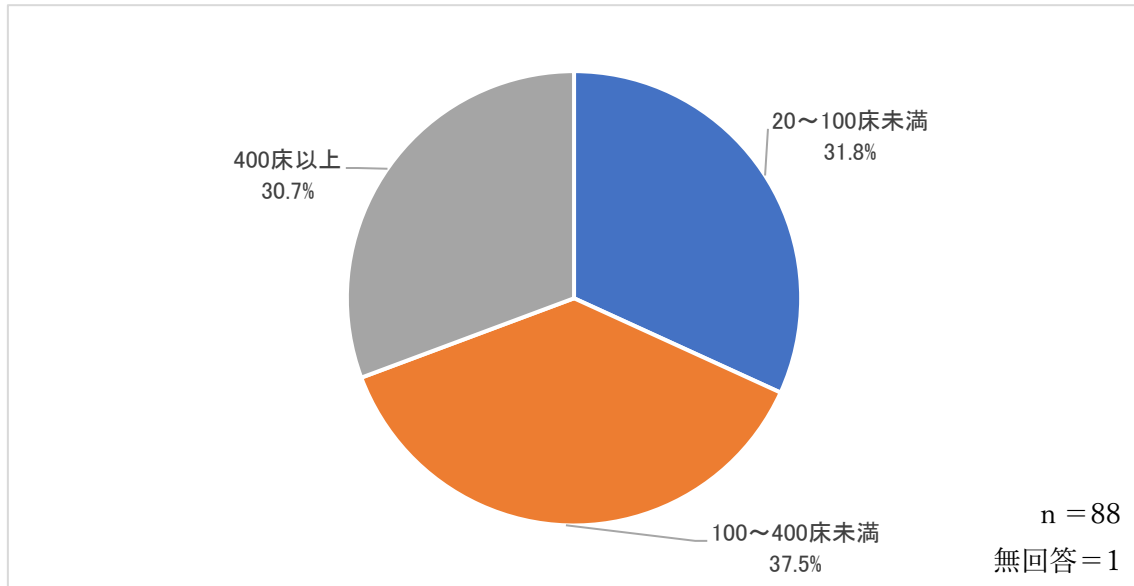


その他：

- ・公益社団法人 3件
- ・公益財団法人 2件
- ・宗教法人 1件

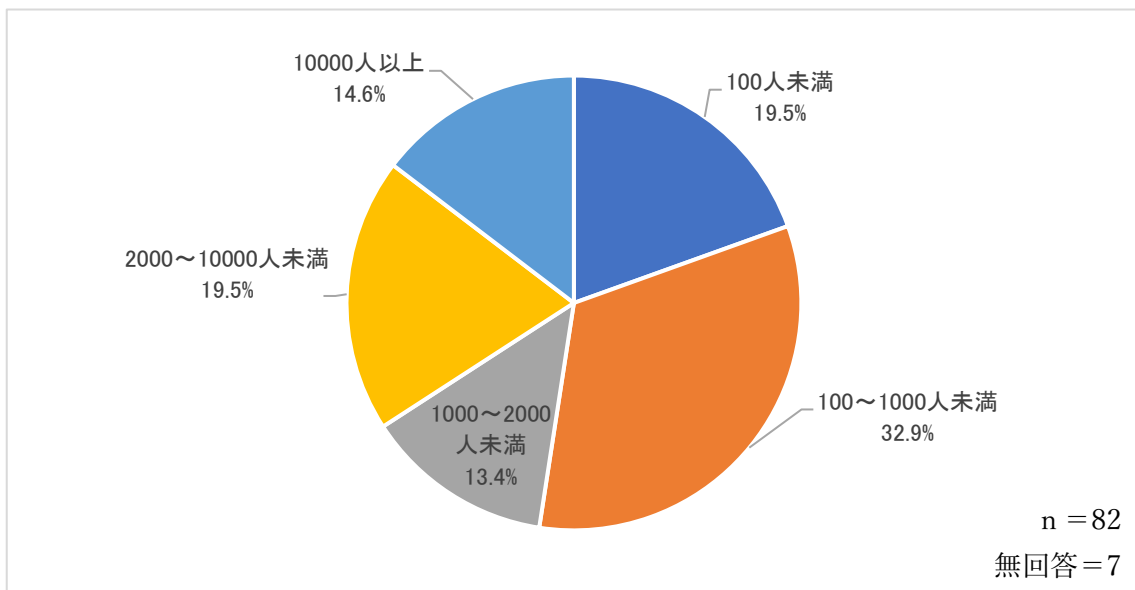
(2) 病床数（単数回答）

病床数（令和3年8月31日時点）は、20～100床未満が31.8%（28件）、100～400床未満が37.5%（33件）、400床以上が30.7%（27件）であった。



(3) 入院患者数（単数回答）

入院患者数（令和3年度8月の1か月間）は、100人未満が19.5%（16件）、100人～1000人未満が32.9%（27件）、1000人～2000人未満が13.4%（11件）、2000人～10000人未満が19.5%（16件）、10000人以上が14.6%（12件）であった。

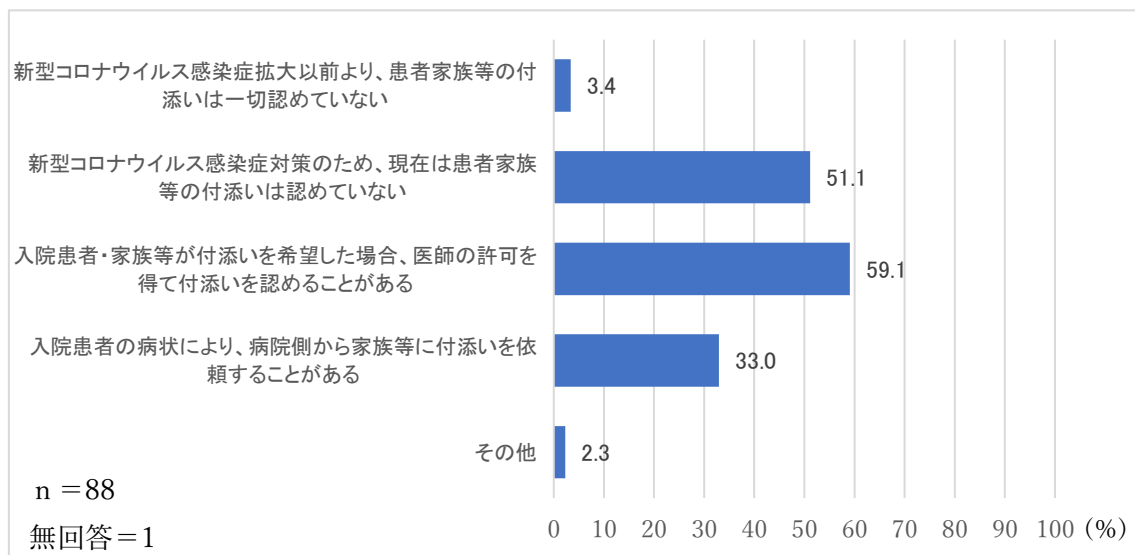


2. 入院患者の家族等による付添い状況

(1) 入院患者の家族等による付添い状況（複数回答）

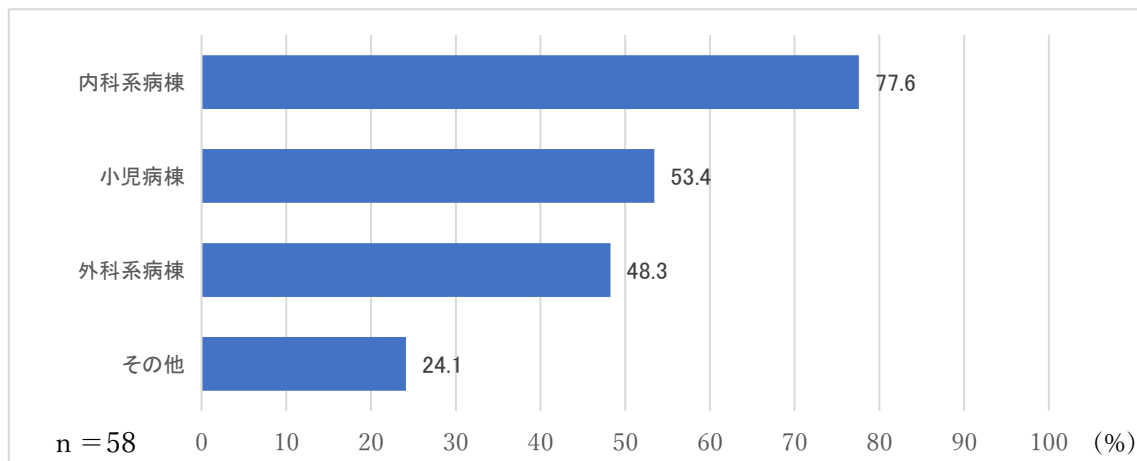
入院患者の家族等による付添い状況は、「入院患者・家族等が付添いを希望した場合、医師の許可を得て付添いを認めることがある」が 59.1%（52 件）と最も多く、次いで「新型コロナウイルス感染症対策のため、現在は患者家族等の付添いは認めていない」が 51.1%（45 件）、「入院患者の病状により、病院側から家族等に付添いを依頼することがある」が 33.0%（29 件）であった。

「新型コロナウイルス感染症拡大以前より、患者家族等の付添いは一切認めていない」または「新型コロナウイルス感染症対策のため、現在は患者家族等の付添いは認めていない」のみを選択した病院は 31.8%（28 件）であった。したがって回答病院の 67.4%（60 件）が患者家族等の付添いを認めていたと言える。



(2) 入院患者の家族等による付添いが可能な病棟

入院患者の家族等による付添い状況について「入院患者の病状により、病院側から家族等に付添いを依頼することがある」または「入院患者・家族等が付添いを希望した場合、医師の許可を得て付添いを認めることがある」と回答した病院において、入院患者の家族等による付添いが可能な病棟は、内科系病棟が 77.6% (45 件)、小児病棟が 53.4% (31 件)、外科系病棟が 48.3% (28 件) であった。



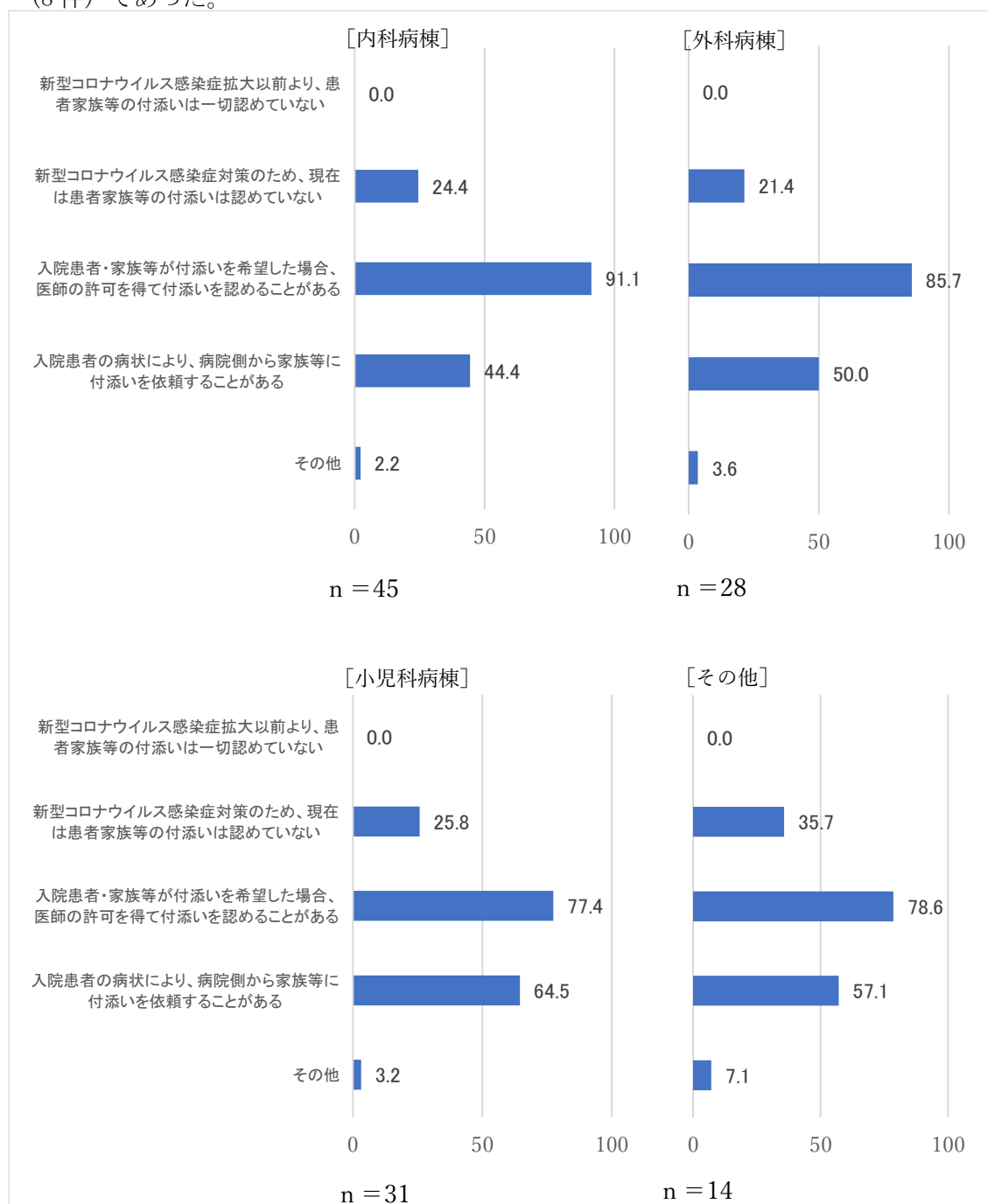
その他：

- ・地域包括ケア病棟 2 件
- ・緩和ケア病棟 2 件
- ・一般病棟 1 件
- ・混合病棟 1 件
- ・総合診療科 1 件
- ・産科 1 件
- ・産科（分娩） 1 件
- ・終末期 1 件
- ・口外 1 件
- ・重症患者のみ 1 件
- ・ICU 1 件

病棟別の入院患者の家族等による付添い状況を以下に示す。

入院患者の家族等による付添い状況について、「内科病棟」、「外科病棟」、「小児科病棟」、「その他」の全ての病棟で「入院患者・家族等が付添いを希望した場合、医師の許可を得て付添いを認めることがある」が最も多く、それぞれ 91.1% (41 件)、85.7% (24 件)、77.4% (24 件)、78.6% (11 件) であった。

全ての病棟で次に多かったのが「入院患者の病状により、病院側から家族等に付添いを依頼することがある」で、それぞれ 44.4% (20 件)、50.0% (14 件)、64.5% (20 件)、57.1% (8 件) であった。

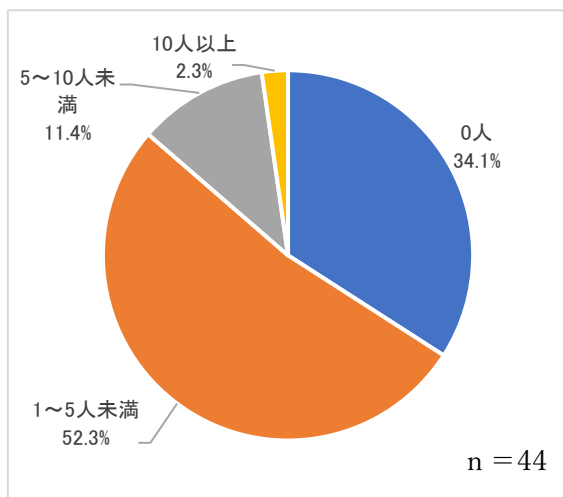


(3) 患者家族等が付添いを行った入院患者数

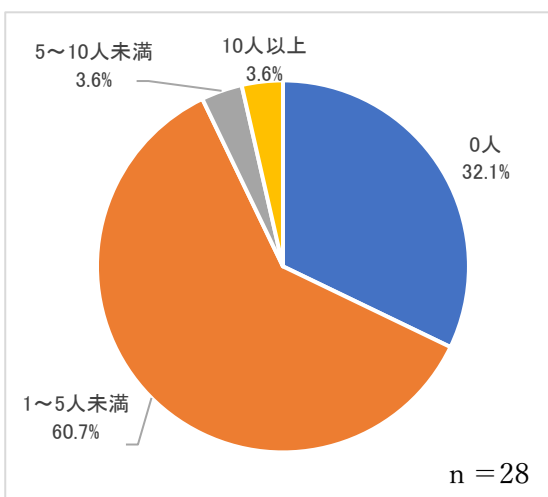
患者家族等の付添いを認めている病院について各診療科別病棟で、令和3年8月の1か月間で患者家族等が付添いを行った入院患者は、内科系病棟・外科病棟・その他の病棟の場合はいずれも「1～5人未満」が最も多く、それぞれ52.3% (23件)・60.7% (17件)・50.0% (7件)であった。

小児科病棟の場合は付添いを行う入院患者の数が多く、「1～20人未満」が33.3% (10件)と最も多く、次いで「100人以上」が23.3% (7件)であった。ただし、小児科病棟で付添いを行った入院患者の数が「100人以上」と回答した病院はすべて全体入院患者数が1000人以上の病院であった。

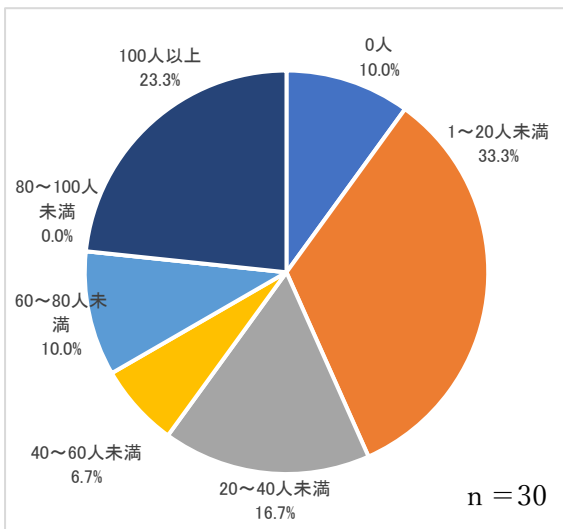
① 内科病棟



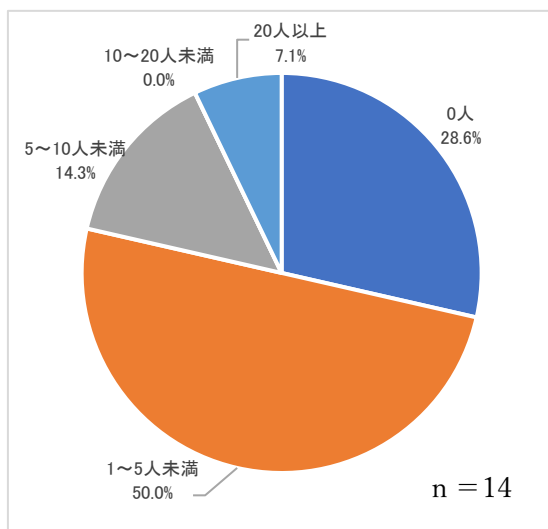
② 外科病棟



③ 小児科病棟

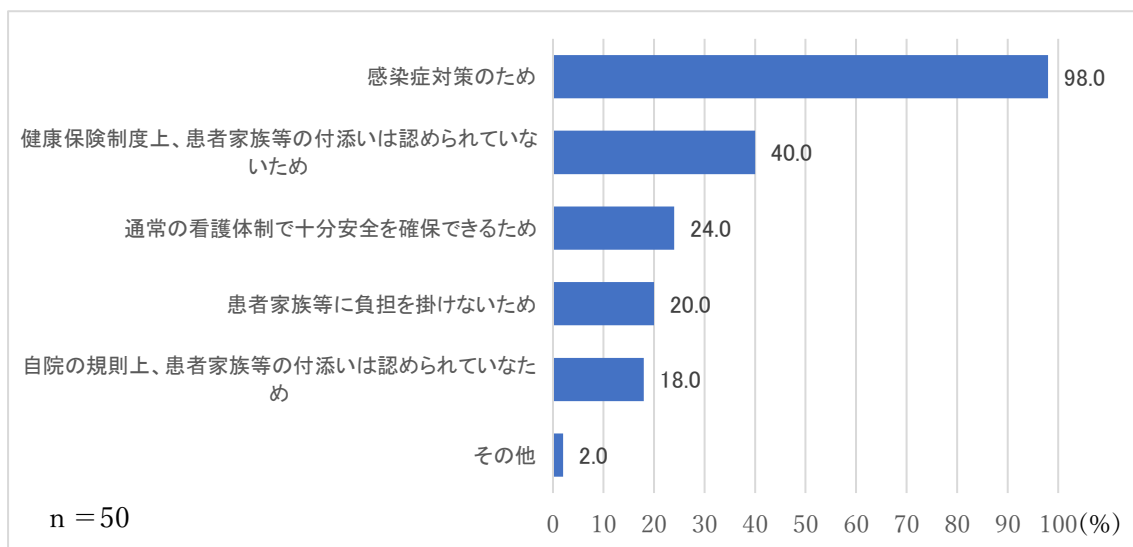


④ その他の病棟



(4) 患者家族等の付添いを認めていない理由

入院患者の家族等による付添い状況について、「新型コロナウイルス感染症対策のため、現在は患者家族等の付添いは認めていない」または「新型コロナウイルス感染拡大以前より、患者家族等の付添いは一切認めていない」を選択した病院について、患者家族等の付添いを認めていない理由を尋ねたところ、「感染症対策のため」が98.0%（49件）、次いで「健康保険制度上、患者家族等の付添いは認められていないため」が40.0%（20件）であった。

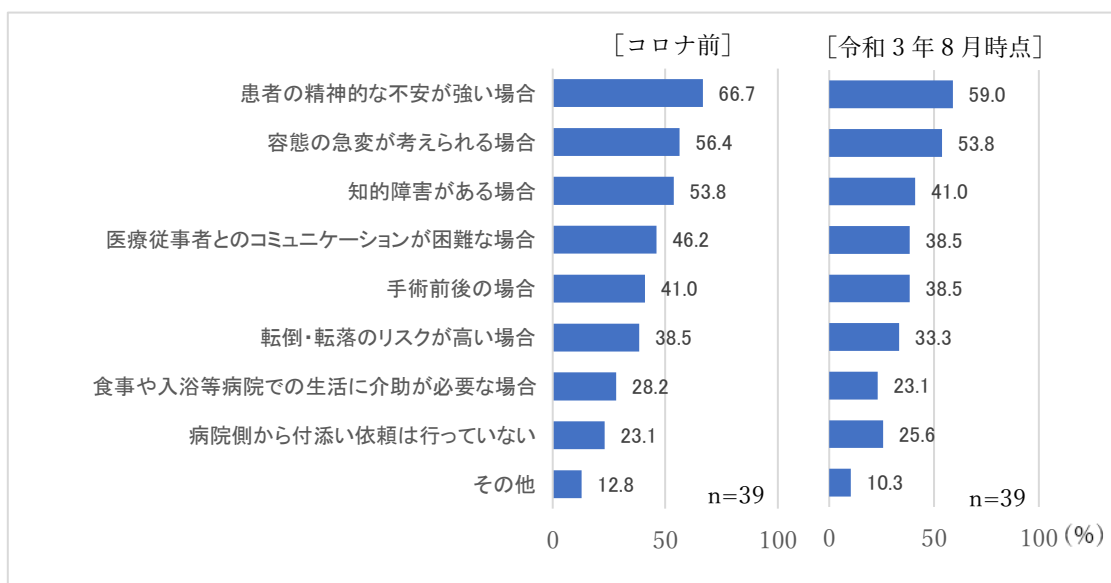


3. 入院患者の年齢層別（小児・成人・高齢者）の患者家族等による付添い状況

（1）病院側から家族等による付添いを依頼するケース（複数回答）

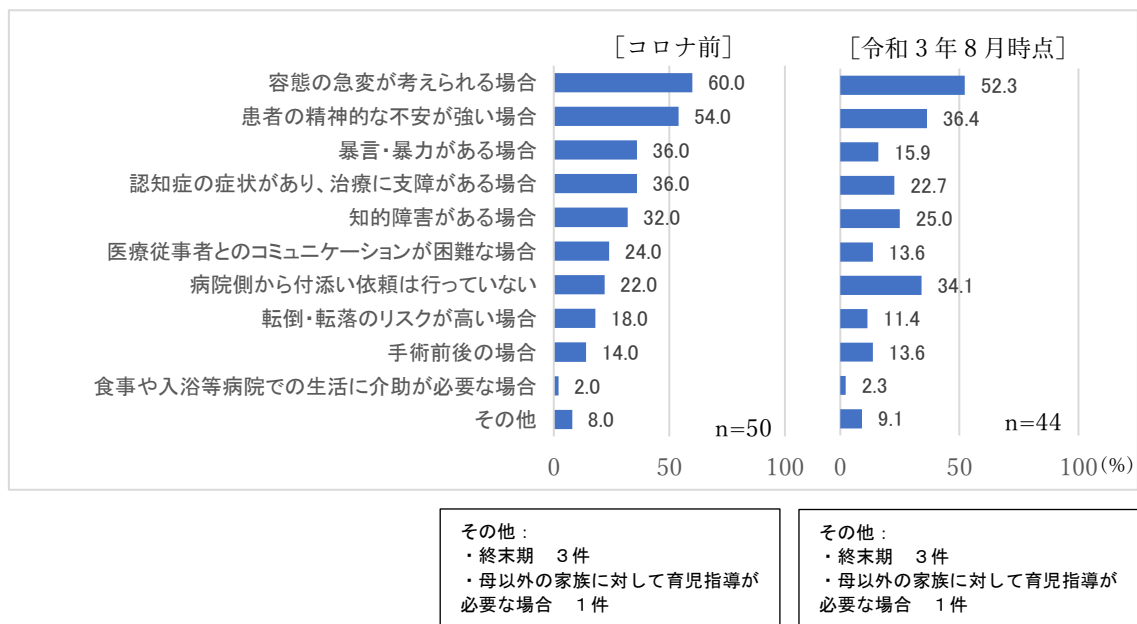
①入院患者が小児（15歳未満）の場合

病院側から家族等による付添いを依頼するケースについて、入院患者が小児の場合は新型コロナウイルス感染拡大以前（以下コロナ前）、令和3年8月時点いずれも「患者の精神的な不安が強い場合」が最も多く、それぞれ66.7%（26件）、59.0%（23件）であった。



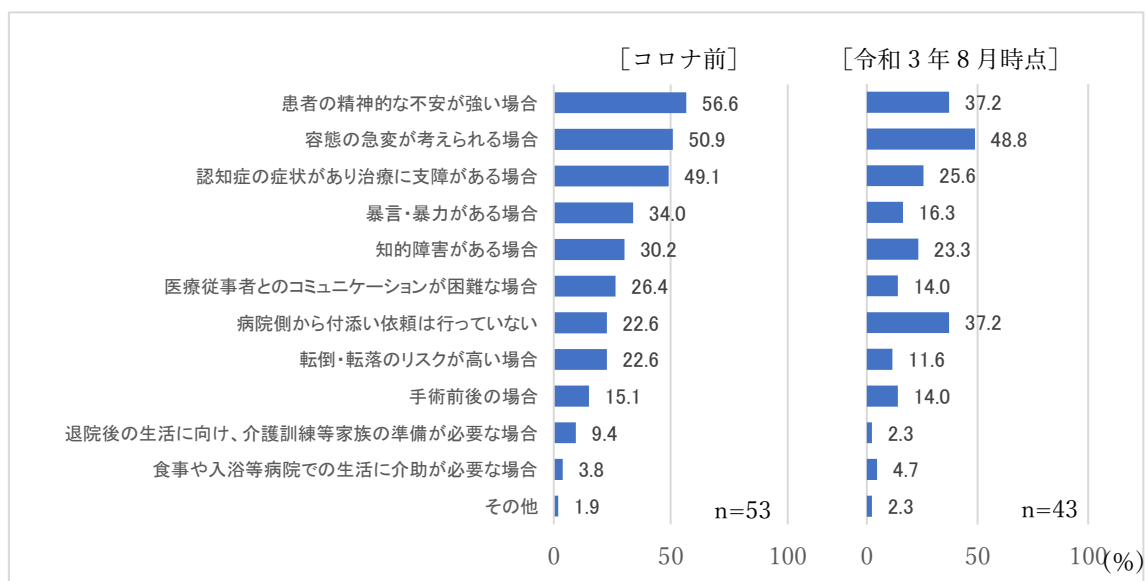
② 入院患者が成人（小児・高齢者以外）の場合

病院側から家族等による付添いを依頼するケースについて、入院患者が成人の場合はコロナ前、令和3年8月時点いずれも「容態の急変が考えられる場合」が最も多く、それぞれ60.0%（30件）、52.3%（23件）であった。



③ 入院患者が高齢者（75歳以上）の場合

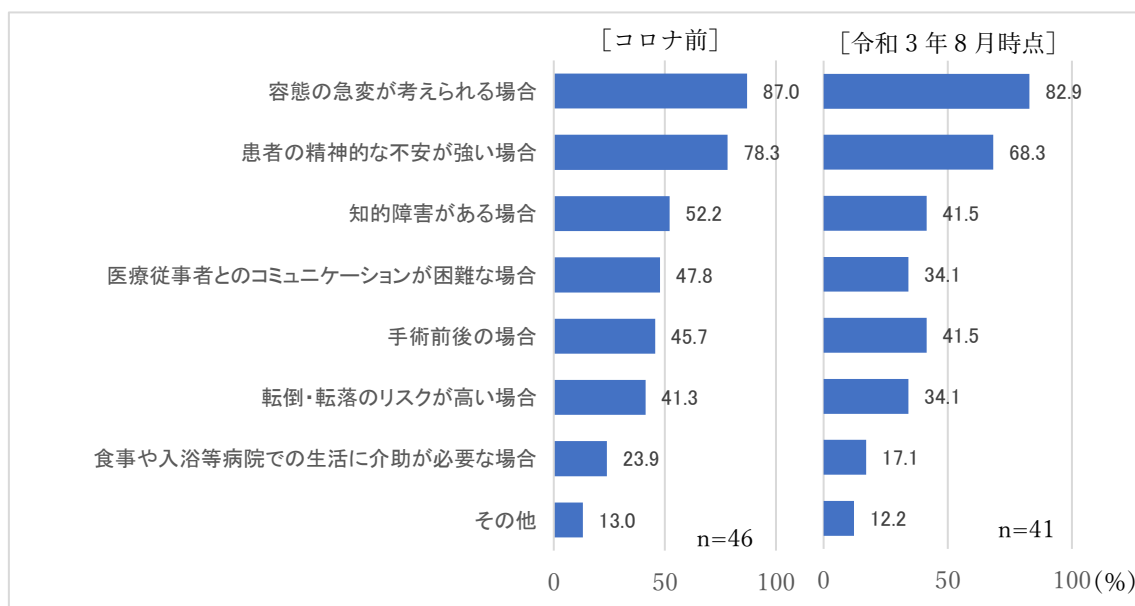
病院側から家族等による付添いを依頼するケースについて、入院患者が高齢者の場合はコロナ前は「患者の精神的な不安が強い場合」が56.6%（30件）、令和3年8月時点は「容態の急変が考えられる場合」が48.8%（21件）と最も多かった。



(2)入院患者または家族等から希望した場合、医師の許可を得て家族等が付添うケースについて（複数回答）

①入院患者が小児（15歳未満）の場合

入院患者または家族等から付添いを希望した場合、医師の許可を得て家族等が付添うケースについて、入院患者が小児の場合はコロナ前、令和3年8月時点いずれも「容態の急変が考えられる場合」が最も多く、それぞれ87.0%（40件）、82.9%（34件）であった。

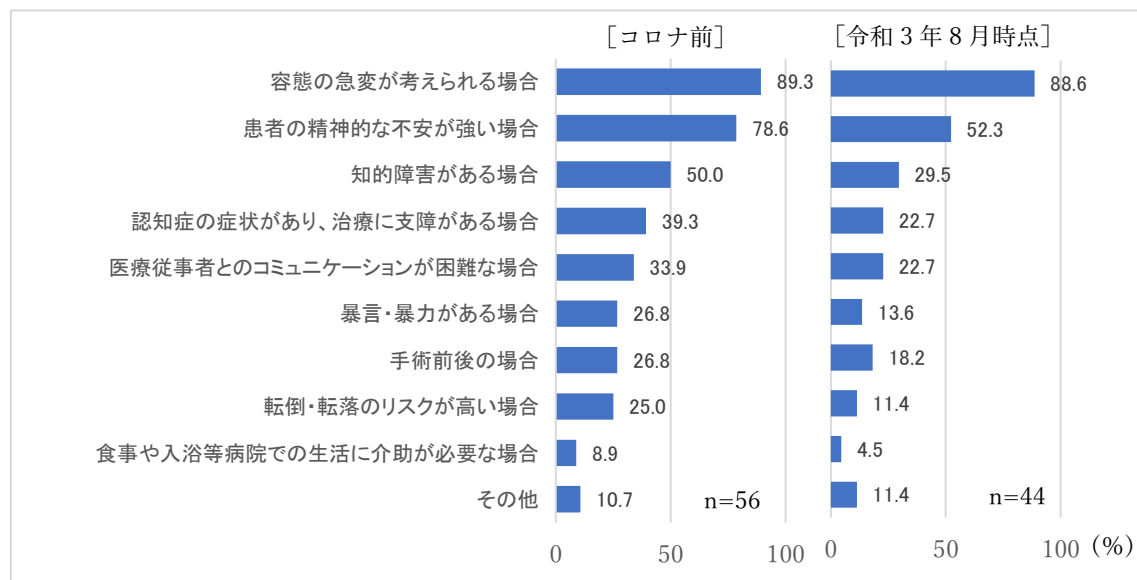


その他：
 ・終末期 2件
 ・小児は付添いあり 2件
 ・ご家族の希望があるとき 1件
 ・患者家族の関係性を考慮 1件

その他：
 ・終末期 2件
 ・小児は付添いあり 2件
 ・患者家族の関係性を考慮 1件

②入院患者が成人（小児・高齢者以外）の場合

入院患者または家族等から付添いを希望した場合、医師の許可を得て家族等が付添うケースについて、入院患者が成人の場合はコロナ前、令和３年８月時点いずれも「容態の急変が考えられる場合」が最も多く、それぞれ 89.3%（50 件）、88.6%（39 件）であった。



その他：

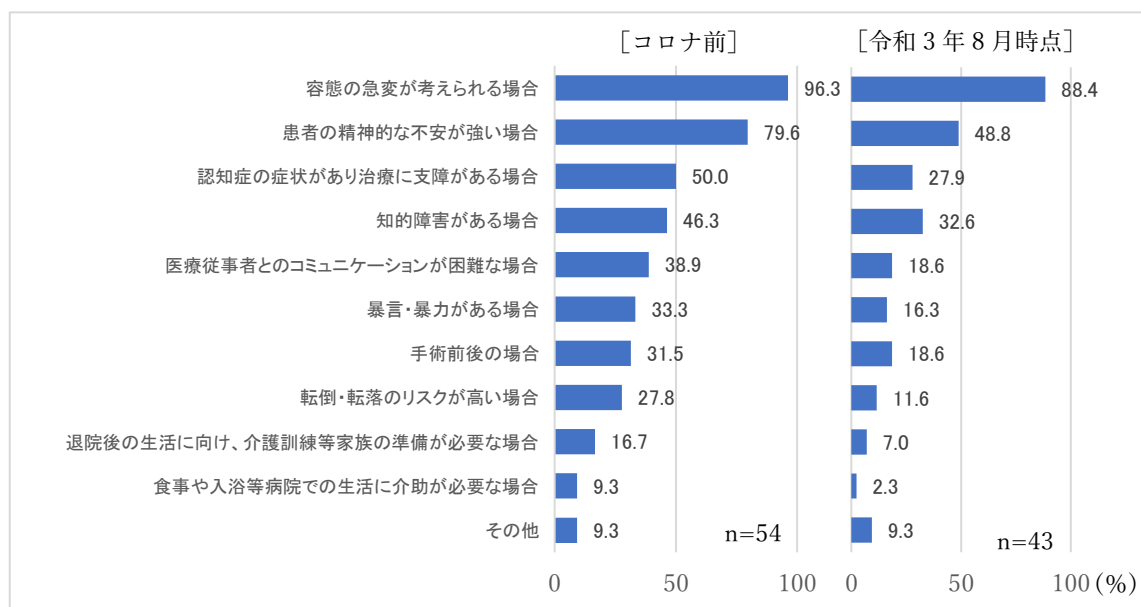
- ・終末期 6 件
- ・母以外の家族に対して育児指導が必要な場合 1 件
- ・ハンセン病療養所入所患者で施設側からの要望 1 件
- ・受刑者 1 件

その他：

- ・終末期 4 件
- ・母以外の家族に対して育児指導が必要な場合 1 件
- ・ハンセン病療養所入所患者で施設側からの要望 1 件
- ・受刑者 1 件

③入院患者が高齢者（75 歳以上）の場合

入院患者または家族等から付添いを希望した場合、医師の許可を得て家族等が付添うケースについて、入院患者が高齢者の場合はコロナ前、令和 3 年 8 月時点いずれも「容態の急変が考えられる場合」が最も多く、それぞれ 96.3%（52 件）、88.4%（38 件）であった。



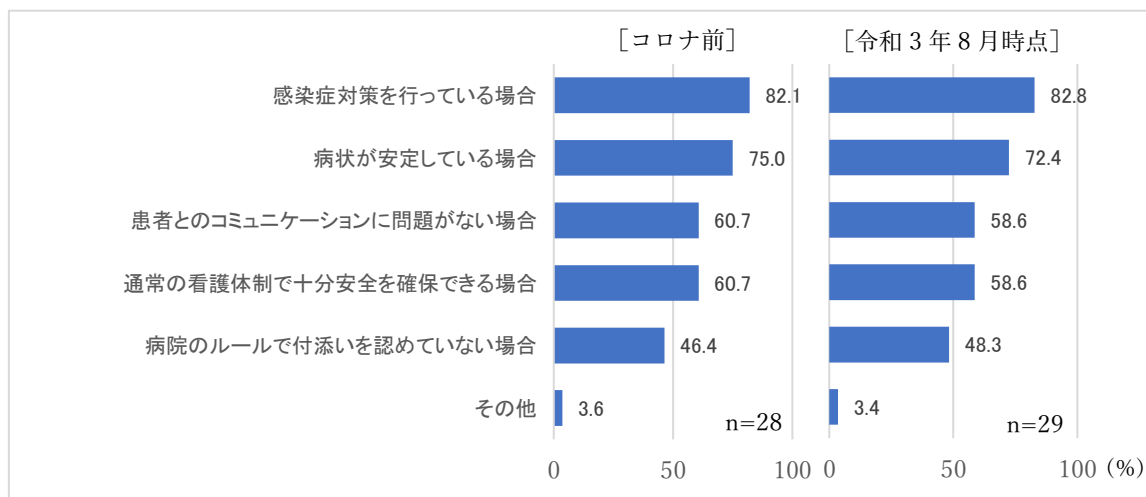
その他：終末期 5 件

その他：終末期 4 件

(3) 入院患者または家族等から付添いを希望するも医師の許可が得られないケースについて（複数回答）

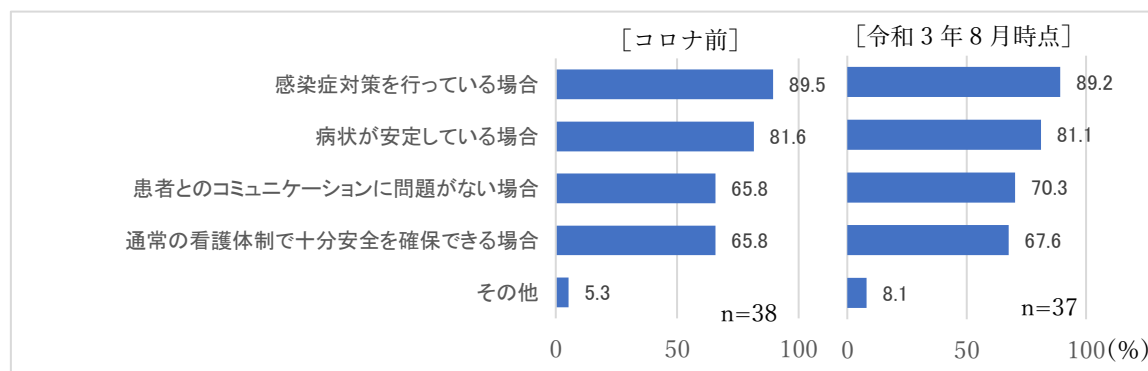
① 入院患者が小児（15 歳未満）の場合

入院患者または家族等から付添いを希望するも医師の許可が得られないケースについて、入院患者が小児の場合はコロナ前、令和 3 年 8 月時点いずれも「感染症対策を行っている場合」が最も多く、それぞれ 82.1%（23 件）、82.8%（24 件）であった。



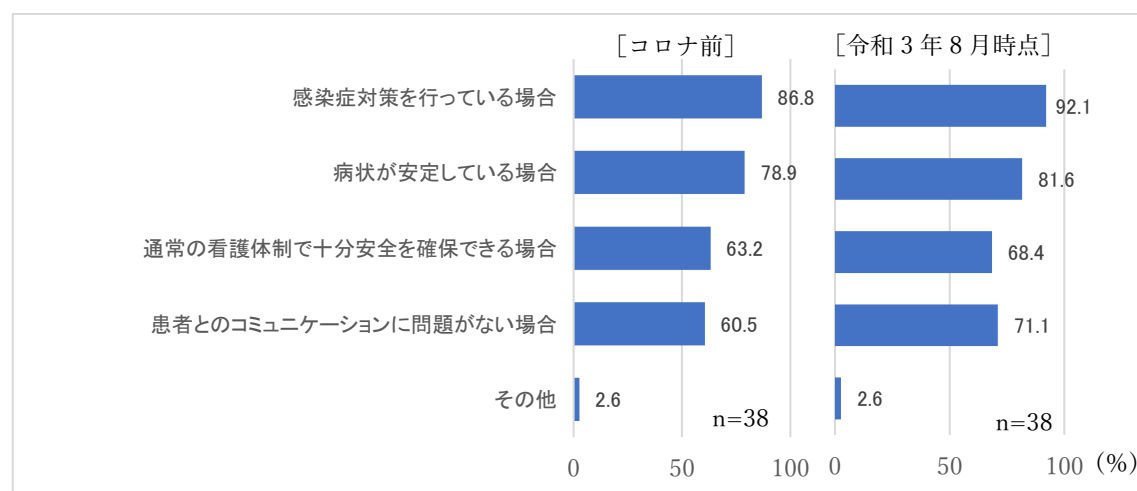
②入院患者が成人（小児・高齢者以外）の場合

入院患者または家族等から付添いを希望するも医師の許可が得られないケースについて、入院患者が成人の場合はコロナ前、令和 3 年 8 月時点いずれも「感染症対策を行っている場合」が最も多く、それぞれ 89.5%（34 件）、89.2%（33 件）であった。



③入院患者が高齢者（75 歳以上）の場合

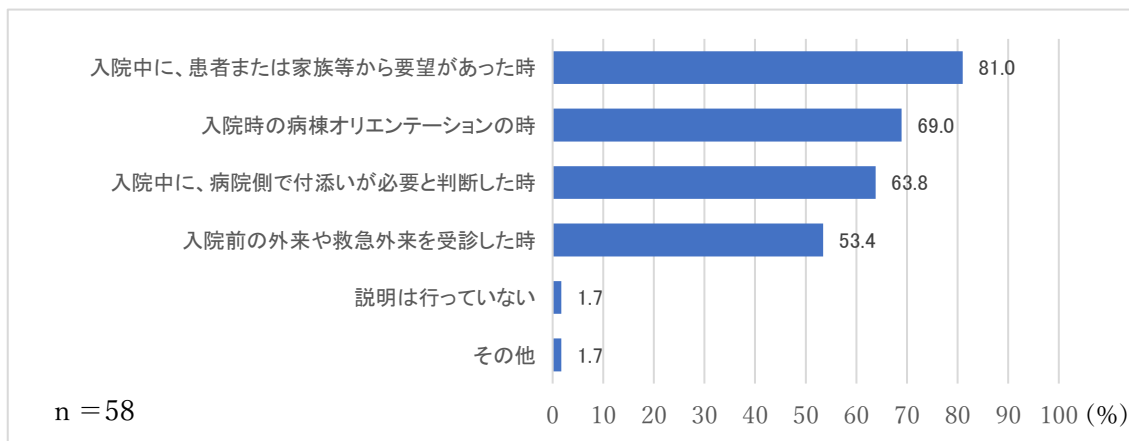
入院患者または家族等から付添いを希望するも医師の許可が得られないケースについて、入院患者が高齢者の場合はコロナ前、令和 3 年 8 月時点いずれも「感染症対策を行っている場合」が最も多く、それぞれ 86.8%（33 件）、92.1%（35 件）であった。



4. 患者及び付添い家族等への説明状況

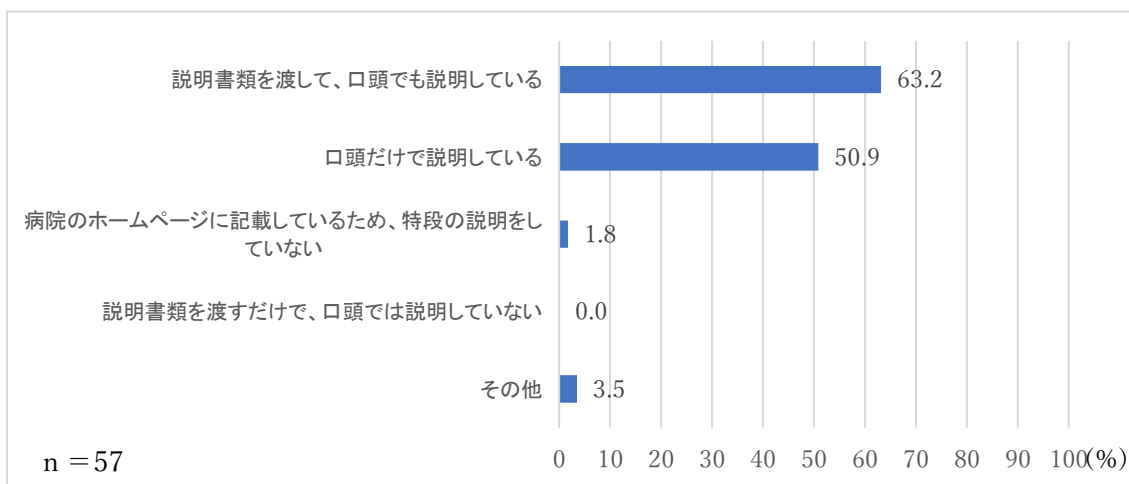
(1) 家族等の付添いについて説明するタイミング（複数回答）

家族等の付添いについて病院が入院患者または家族に対して説明するタイミングは、「入院中に、患者または家族等から要望があった時」が 81.0%（47 件）、次いで「入院時の病棟オリエンテーションの時」が 69.0%（40 件）であった。



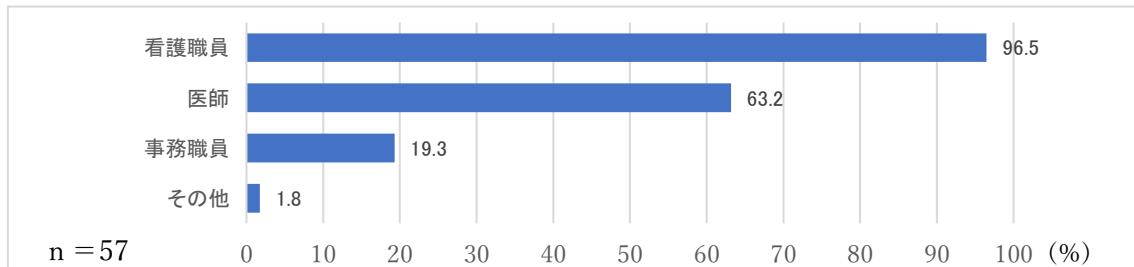
(2) 家族等に付添いについて説明する方法（複数回答）

病院が患者及び家族等に付添いについて説明する方法は、「説明書類を渡して、口頭でも説明している」が 63.2%（36 件）、次いで「口頭だけで説明している」が 50.9%（29 件）であった。



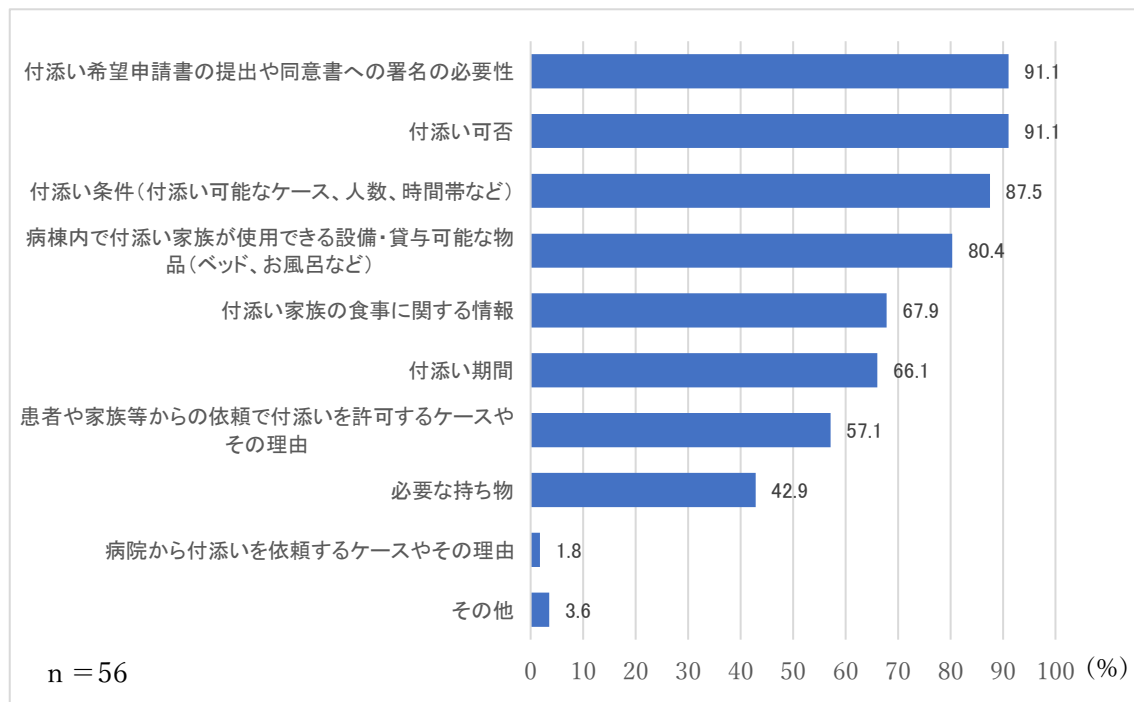
(3) 家族等に付添いについて説明する担当者（複数回答）

病院が患者及び家族等に付添いについて説明する際の担当者は、看護職員が 96.5%（55 件）、次いで医師が 63.2%（36 件）であった。



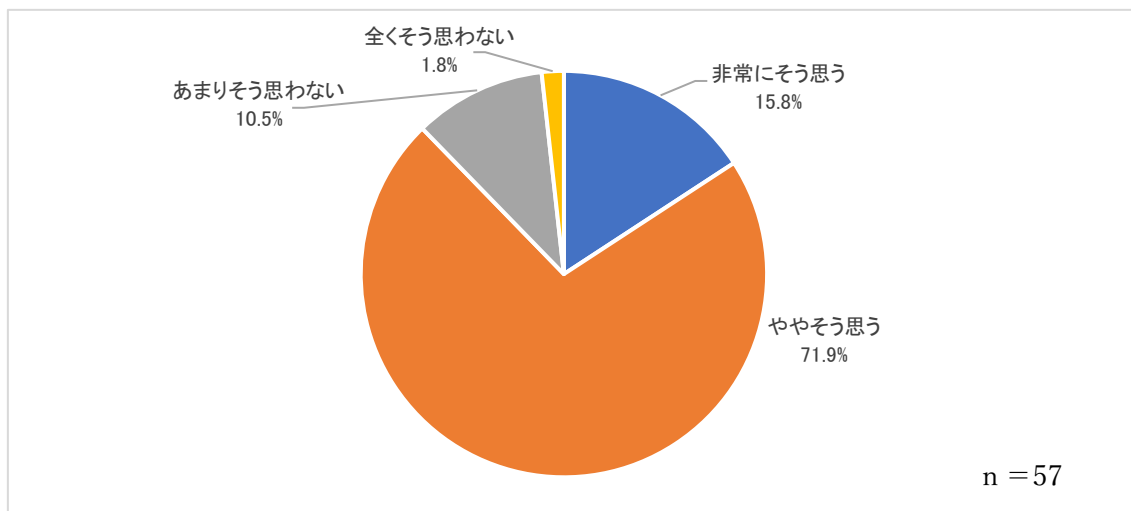
(4) 家族等に付添いについて説明する内容（複数回答）

病院が患者及び家族等に付添いについて説明する内容は、「付添い希望申請書の提出や同意書への署名の必要性」および「付添い可否」が 91.1%（51 件）と最も多く、次いで「付添い条件（付添い可能なケース、人数、時間帯など）」が 87.5%（49 件）であった。



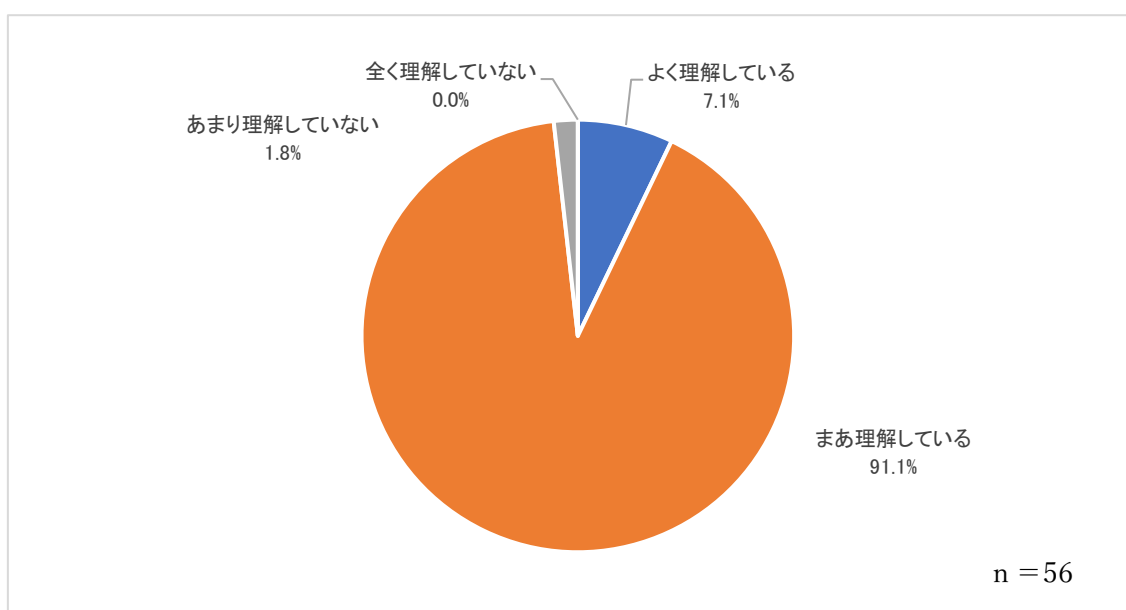
(5) 家族等への説明が十分であるか（単数回答）

病院が行っている患者及び家族等に対する付添いについての説明が十分かどうかについて、「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせて 87.7%（50 件）が説明が十分であると考えている。



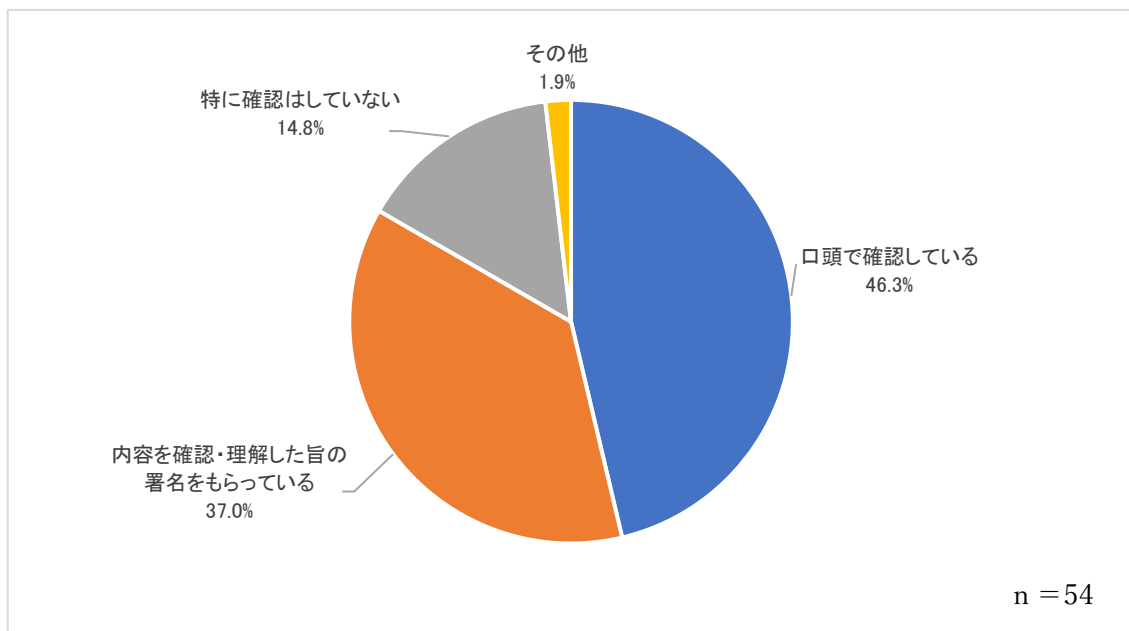
(6) 家族等への説明に対する患者及び家族等の理解度（単数回答）

病院が行っている付添いに関する説明を、患者家族等が理解しているか否かについて、「よく理解している」と「まあ理解している」を合わせて 98.2%（55 件）が理解していると考えている。



(7) 家族等への説明に対する患者及び家族等の理解度の確認方法（単数回答）

病院で行っている患者家族等への説明について、患者家族等がどの程度理解しているか確認する手段として「口頭で確認している」が最も多く 46.3%（25 件）、次いで「内容を確認・理解した旨の署名をもらっている」が 37.0%（20 件）であった。



(8)入院患者の家族等による付添いについて困っていることや課題（自由記述）

病院に入院患者の家族等による付添いについて困っていることや課題に感じていることを自由記述形式で尋ねたところ、以下のような意見が挙げられた。n=19

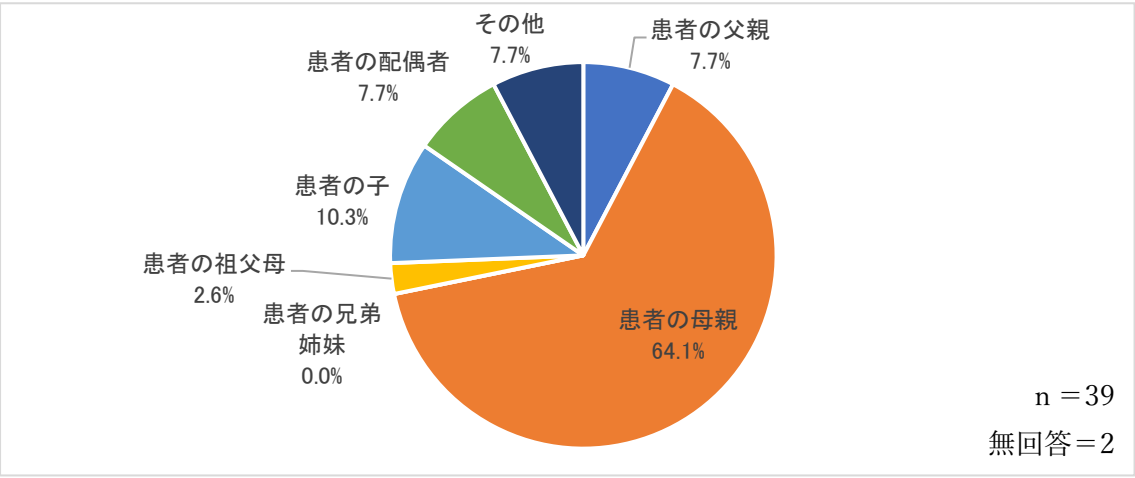
- 入院付添を行うための病院の設備・環境が整っていない 5 件
- 感染症対策のため終末期の入院患者の面会が制限される 5 件
- 感染症対策による入院患者の面会制限について、面会者への説明が難しい 3 件
- 交通事情等によって帰れなくなった患者家族等が付添いを希望する 2 件
- 入院付添いを行う家族等への対応（介助）が必要 2 件
- 病室に多数で泊まろうとする人がある 2 件
- その他 7 件

第4章 患者家族等調査票結果

1. 回答者の属性

(1)入院患者との関係（単数回答）

回答者と入院患者との関係は「患者の母親」が 64.1%（25 件）と最も多く、次いで「患者の子」がそれぞれ 10.3%（4 件）であった。

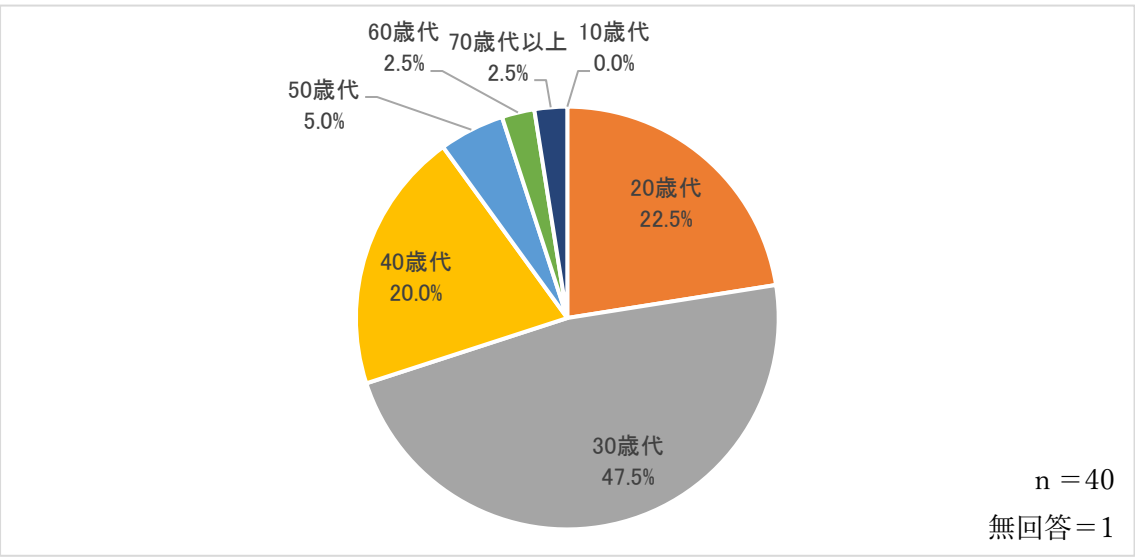


その他：

- ・孫 2 件

(2)回答者の年代（単数回答）

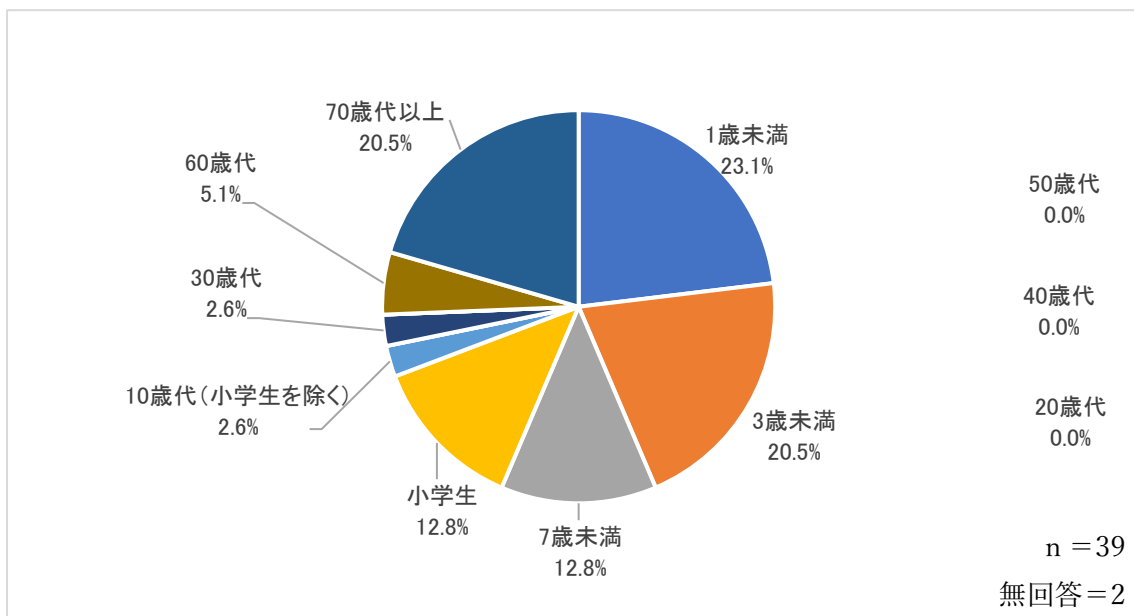
回答者の年代は「30 歳代」が 47.5%（19 件）と最も多く、次いで「20 歳代」が 22.5%（9 件）であった。



(3) 付添っている家族（患者）の年代（単数回答）

付き添っている家族（患者）の年代は「1歳未満」が23.1%（9件）と最も多く、次いで「3歳未満」と「70歳代以上」が20.5%（8件）であった。

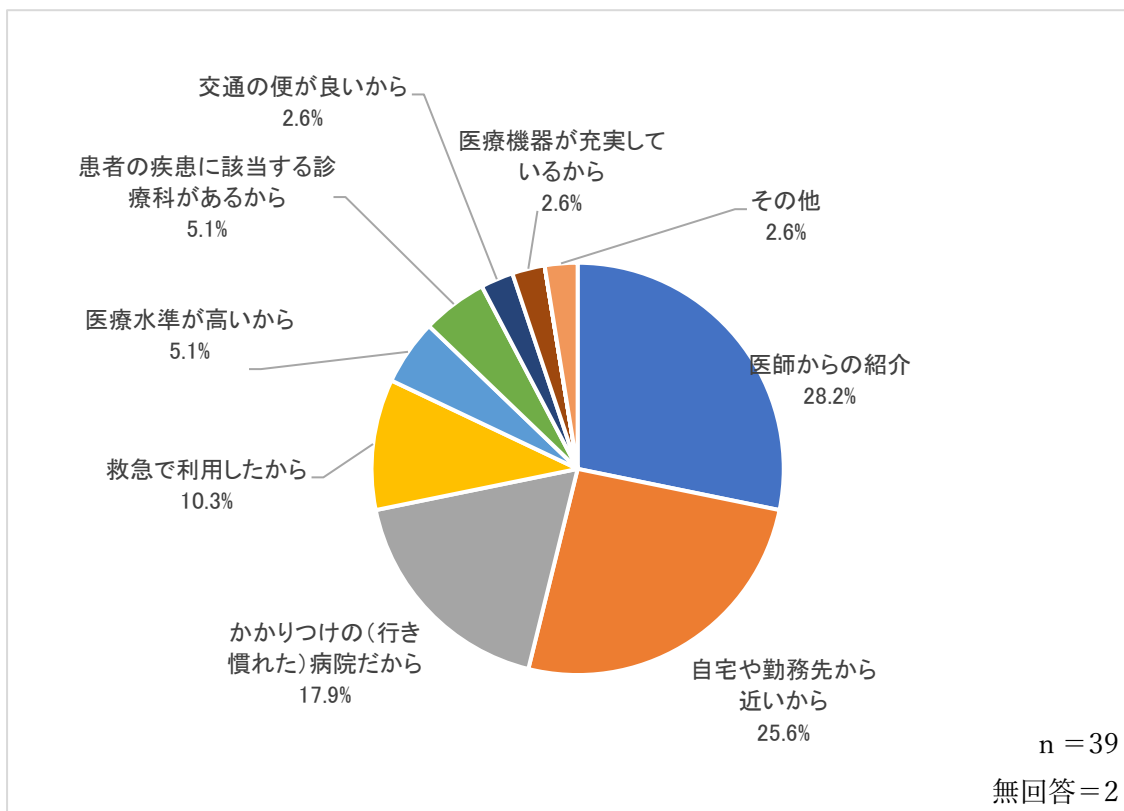
全体の69.2%（27件）が小学生以下であった。



2. 現在家族（患者）が入院している病院での付添い状況

（1）現在家族（患者）が入院している病院を選んだ理由（単数回答）

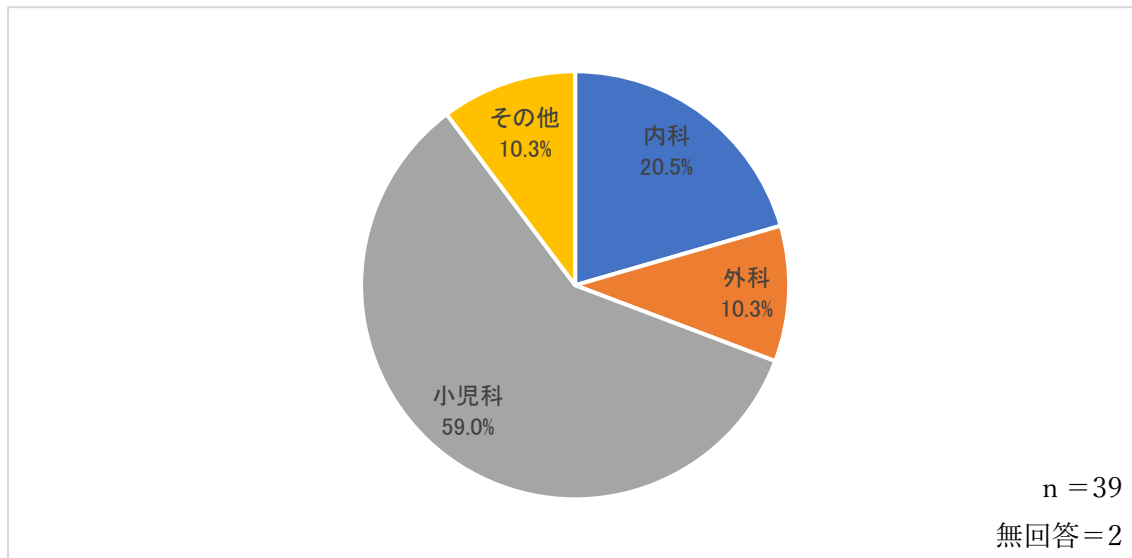
現在家族（患者）が入院している病院を選んだ理由は「医師からの紹介」28.2%（11 件）、次いで「自宅や勤務先が近いから」が 25.6%（10 件）であった。



- ・ 家族や知人に勧められたから 0.0%
- ・ 専門的な医療が受けられるから 0.0%
- ・ 評判の良い医師がいるから 0.0%
- ・ 施設や設備が新しいから 0.0%
- ・ 家族（患者）の付添いが可能だから 0.0%

(2) 家族（患者）が入院している診療科（単数回答）

家族（患者）が入院している診療科は「小児科」が 59.0% (23 件) と最も多く、「内科」が 20.5% (8 件)、「外科」が 10.3% (4 件) であった。

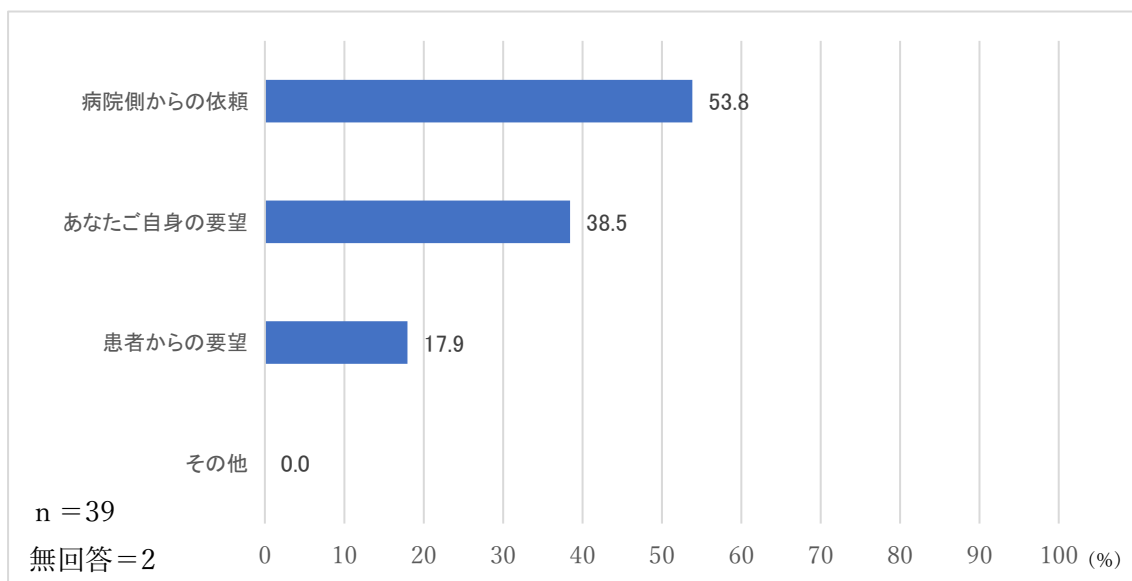


その他：

- ・呼吸器（呼吸器、呼吸器外科）3 件

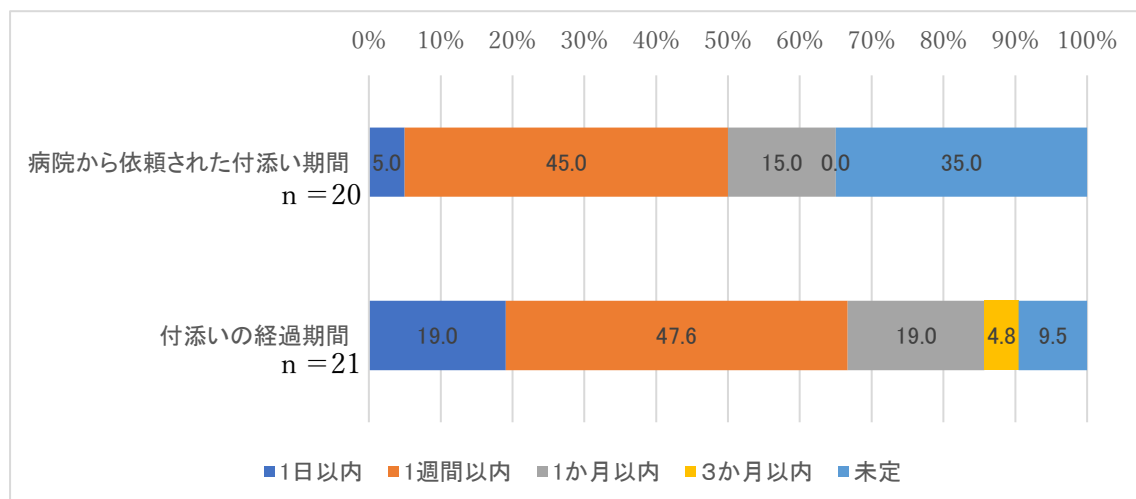
(3) 家族（患者）の付添いを始めたきっかけ（複数回答）

家族（患者）の入院で付添いを始めたきっかけは「病院側からの依頼」が 53.8% (21 件)、「あなた（患者家族等）ご自身のご要望」が 38.5% (15 件)、「患者からの要望」は 17.9% (7 件) であった。



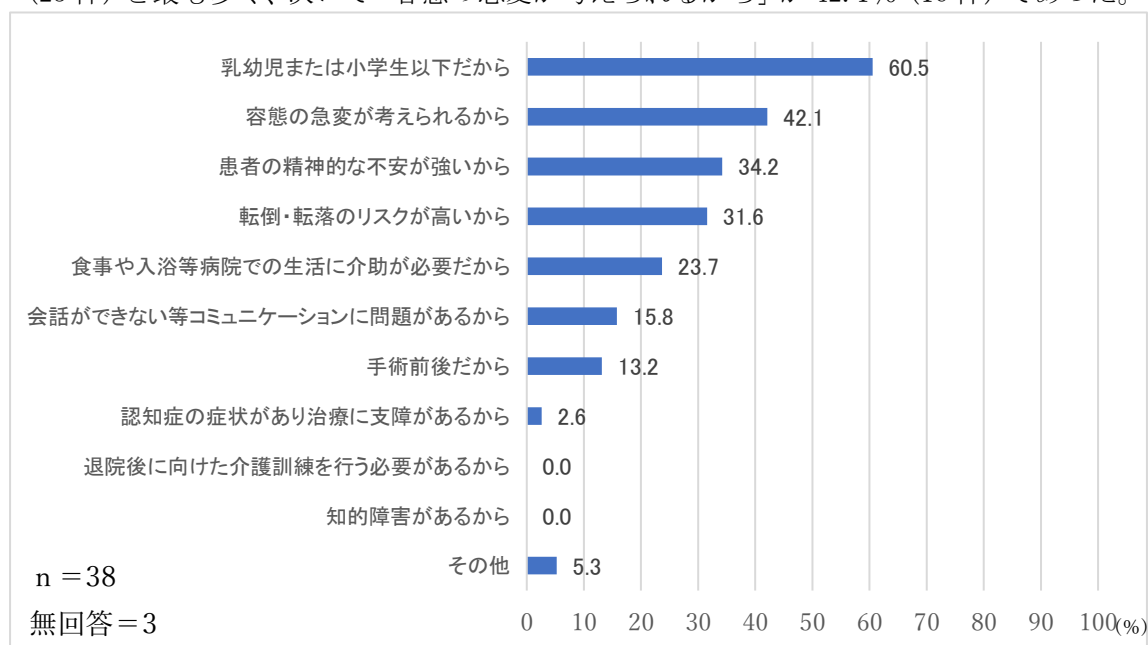
(4) 病院から依頼された際の当初の予定付添い期間とアンケート回答時までの付添い経過期間（単数回答）

病院から依頼された際の当初の予定付添い期間は「1週間以内」が最も多く 45.0% (9 件)、次いで「未定」が 35.0% (7 件) であった。アンケート回答時までの付添い経過期間は「1週間以内」が 47.6% (10 件) で最も多かった。



(5) 家族（患者）の入院付添いが必要な理由（複数回答）

家族（患者）の入院で付添いが必要な理由は「乳幼児または小学生以下だから」が 60.5% (23 件) と最も多く、次いで「容態の急変が考えられるから」が 42.1% (16 件) であった。

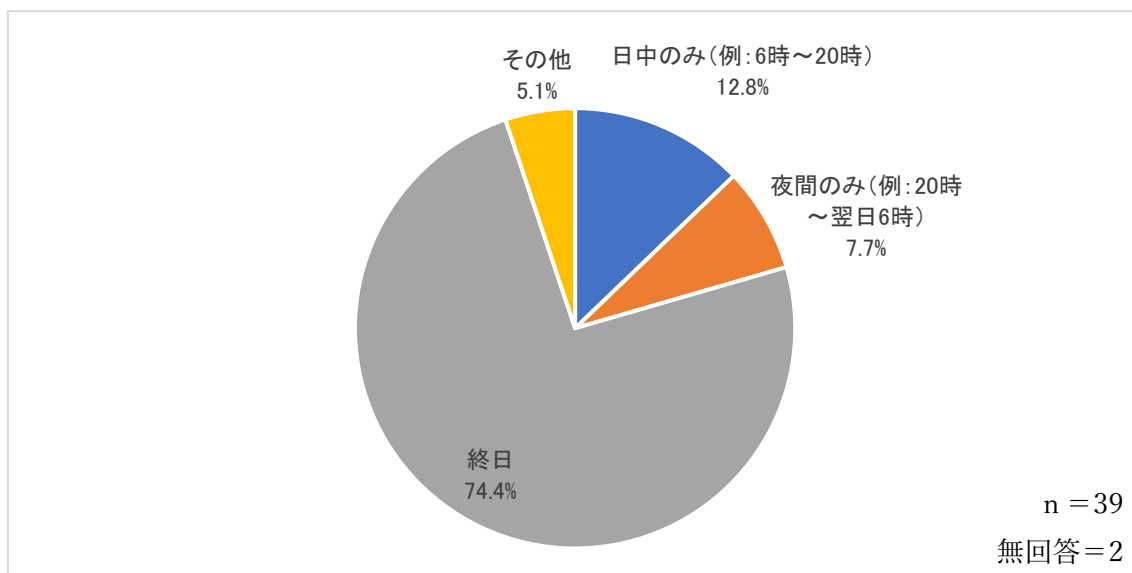


その他：

- ・小学生だから 2 件

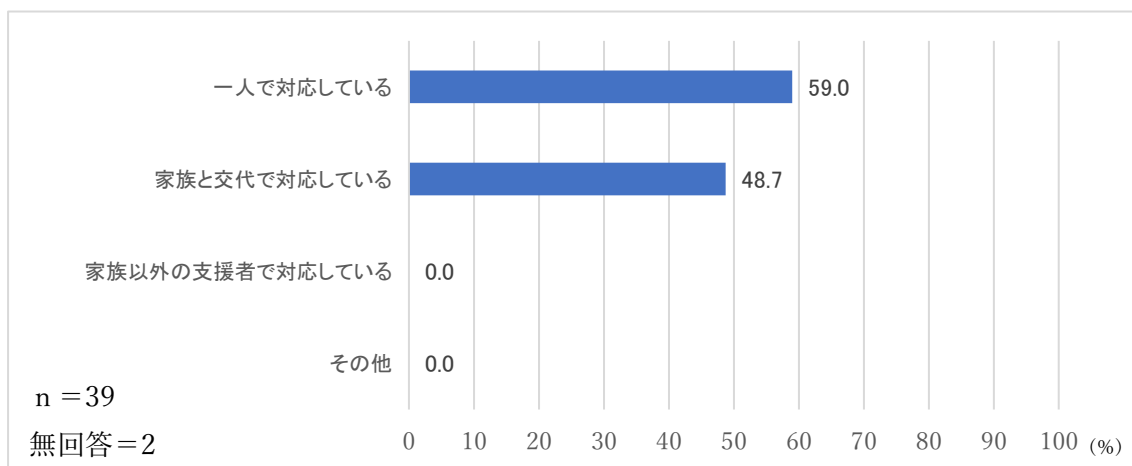
(6) 家族（患者）の入院付き添いを行っている時間帯（単数回答）

家族（患者）の入院で付き添いを行っている時間帯は「終日」が74.4%（29件）と最も多く、次いで「日中のみ（例：6時～20時）」が12.8%（5件）であった。



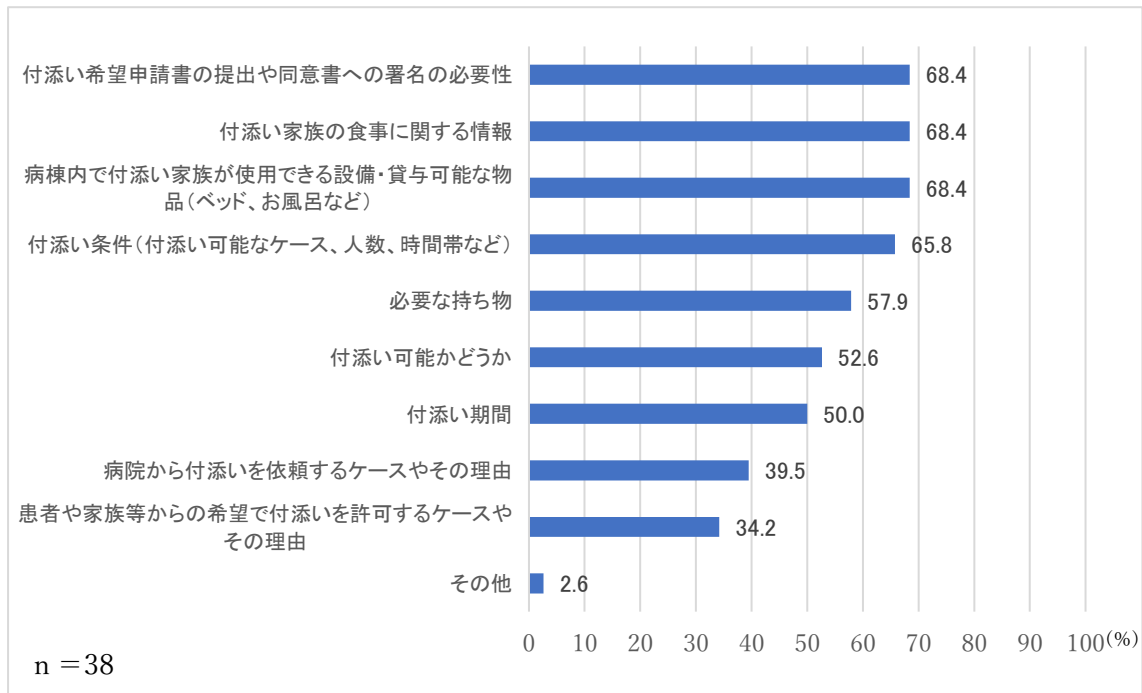
(7) 家族（患者）の入院付添い体制（複数回答）

家族（患者）の入院での付添いの体制は「一人に対応している」が59.0%（23件）、次いで「家族と交代で対応している」が48.7%（19件）であった。



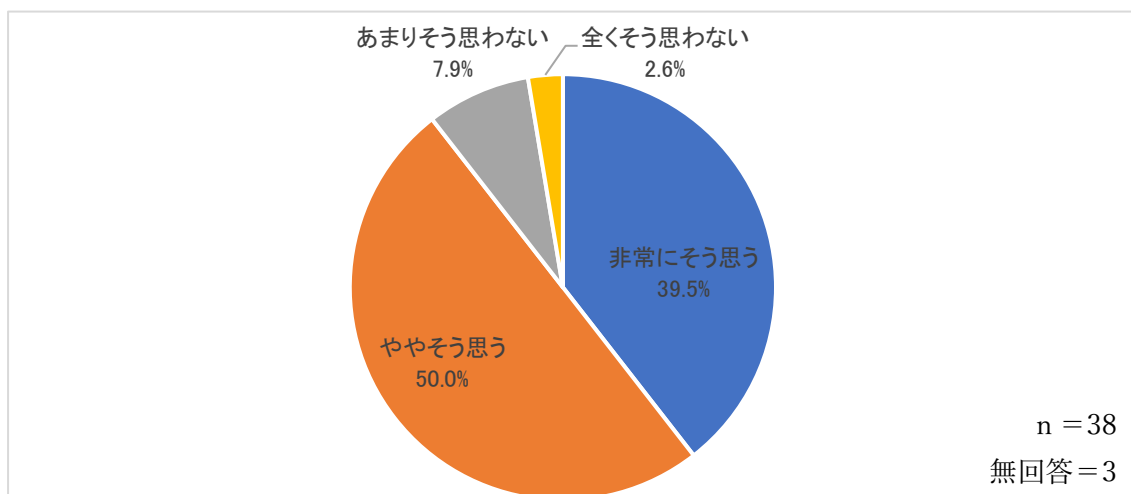
(8) 家族（患者）の付添いに関する病院からの説明内容（複数回答）

家族（患者）の付添いに関する病院からの説明内容は「付添い希望申込書の提出や同意書への署名の必要性」「付添い家族の食事に関する情報」、「病棟内で付添い家族が使用できる設備・貸与可能な物品（ベッド・お風呂など）」が 68.4%（26 件）と最も多く、次いで、「付添い条件（付添い可能なケース、人数、時間帯など）」が 65.8%（25 件）であった。



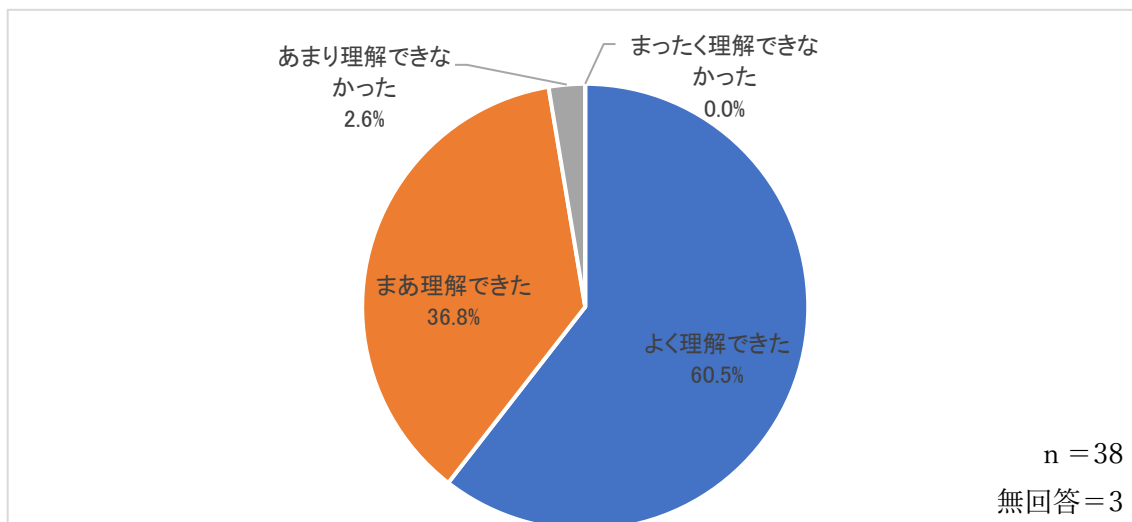
(9) 家族（患者）の付添いに関する病院からの説明が十分かどうか（単数回答）

病院から受けた付添いに関する病院からの説明が十分かどうかについて、「非常に思う」と「やや思う」を合わせて 89.5%（34 件）が十分であると回答していた。



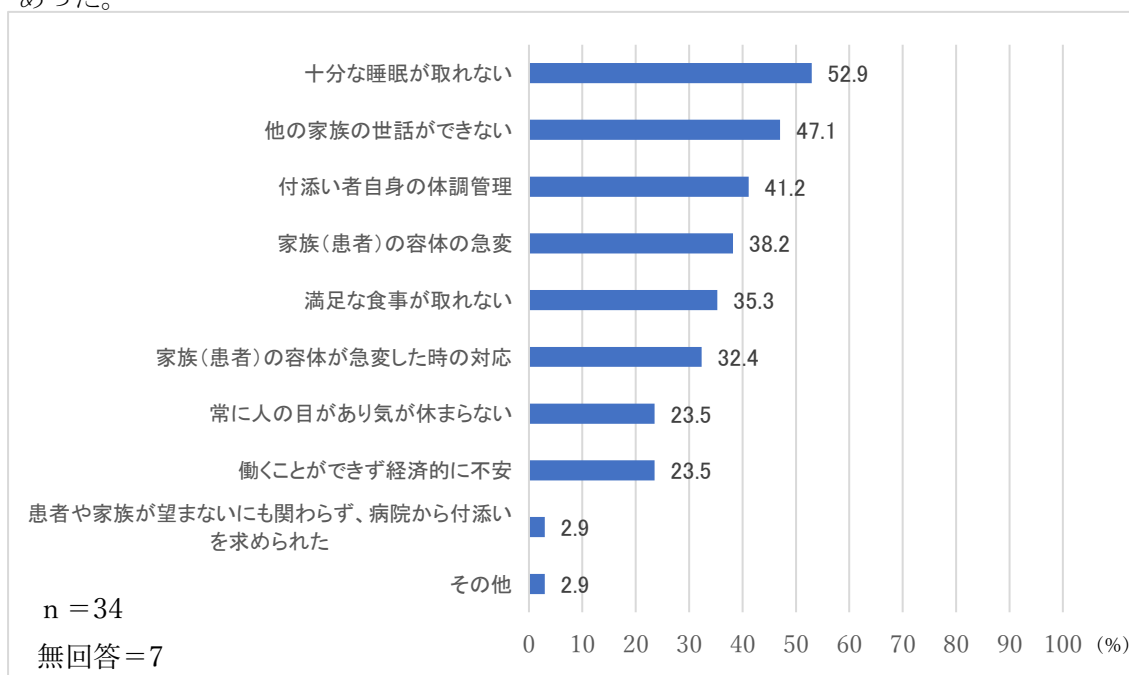
(10) 家族（患者）の付添いに関する病院からの説明に対する理解度（単数回答）

家族（患者）の付添いに関する病院からの説明に対する理解度は「よく理解できた」と「まあ理解できた」を合わせて 97.4%（37 件）が理解できていると回答した。



(11) 家族（患者）の付添いにおける心配事や困っていること（複数回答）

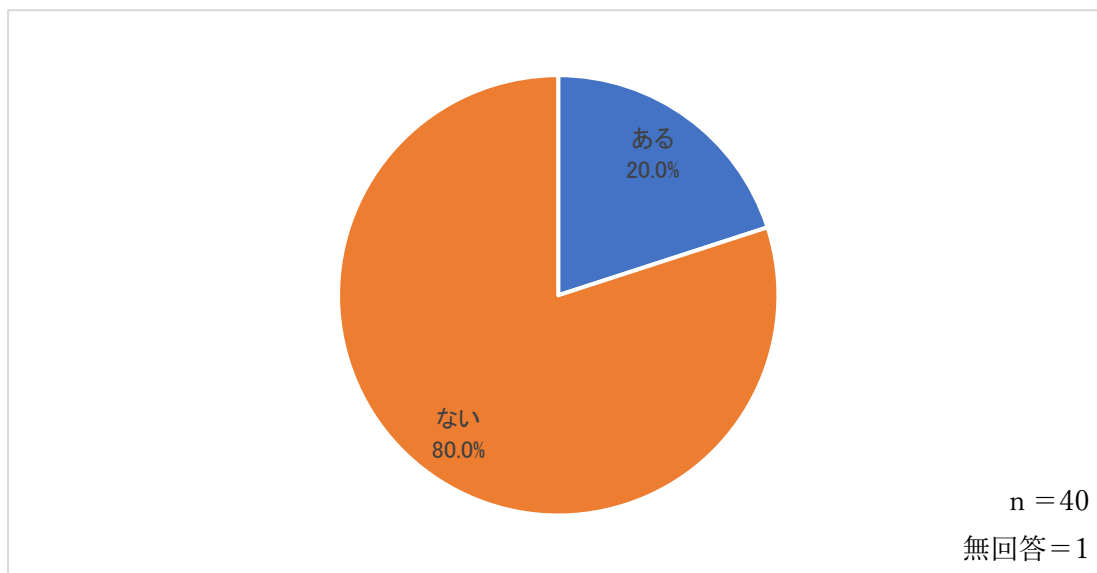
今回の家族（患者）の付添いにおける心配事や困っていることは「十分な睡眠が取れない」が 52.9%（18 件）と最も多く、次いで「他の家族の世話ができない」が 47.1%（16 件）であった。



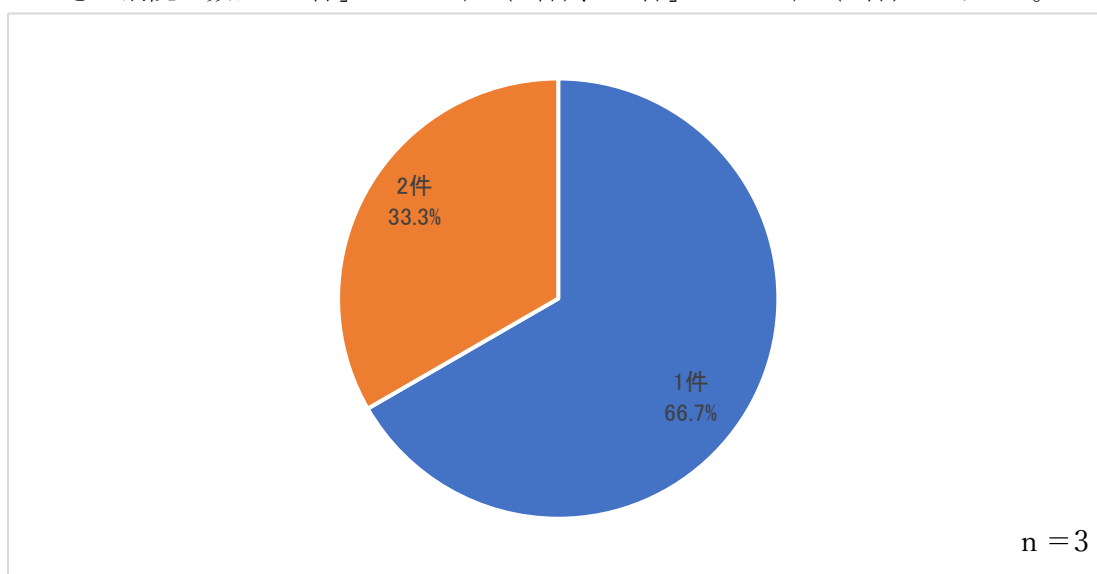
3. これまでに家族（患者）が入院したことのある他の病院での付添いについて

(1) 家族（患者）の入院付添いを求められた経験の有無とその病院数

これまでに家族（患者）が入院したことのある他の病院での付添いにおいて、家族（患者）の付添いを求められた経験の有無は「ある」は 20.0%（8 件）、「ない」が 80.0%（32 件）であった。

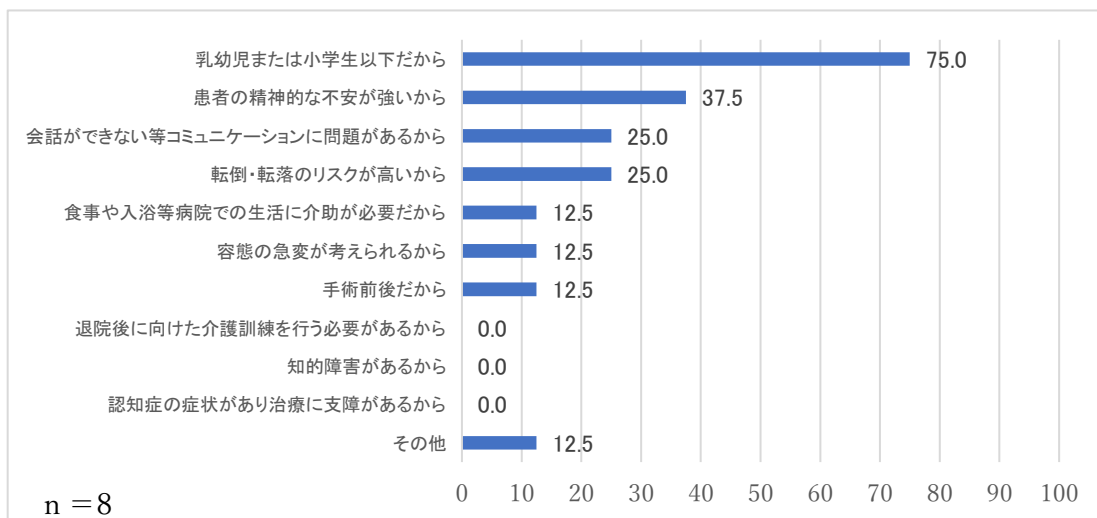


家族（患者）の付添いを求められた経験が「ある」と回答した人について、付き添いを求めてきた病院の数は「1 件」が 66.7%（2 件）、「2 件」が 33.3%（1 件）であった。



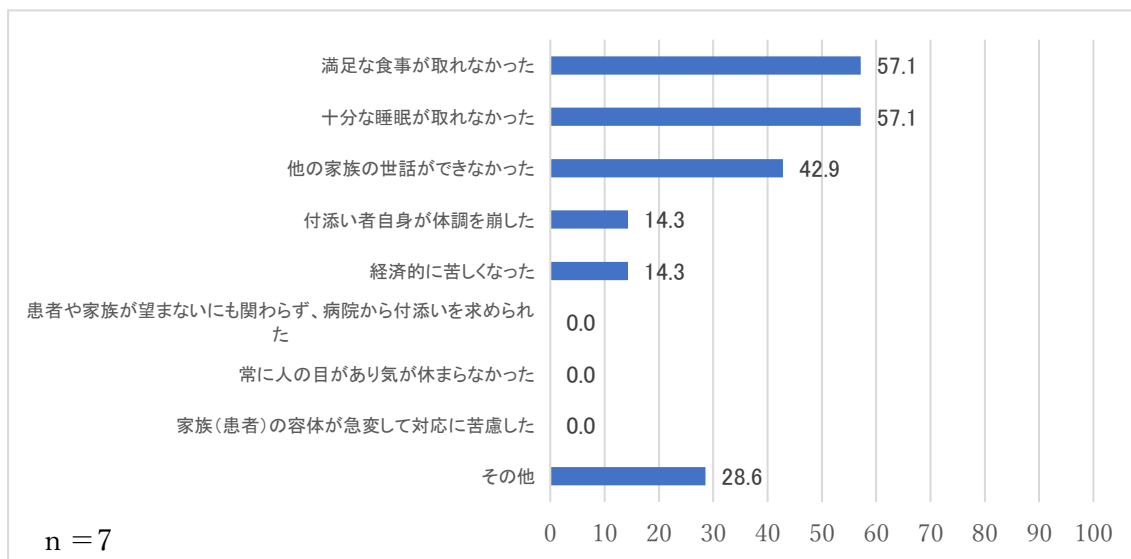
(2) 家族（患者）の入院付添いを求められた理由（複数回答）

これまでに家族（患者）が入院したことのある他の病院での付添いにおいて、家族（患者）の付添いを求められた経験が「ある」と回答した人について、付添いを求められた理由は「乳幼児または小学生以下だから」が75.0%（6件）と最も多かった。



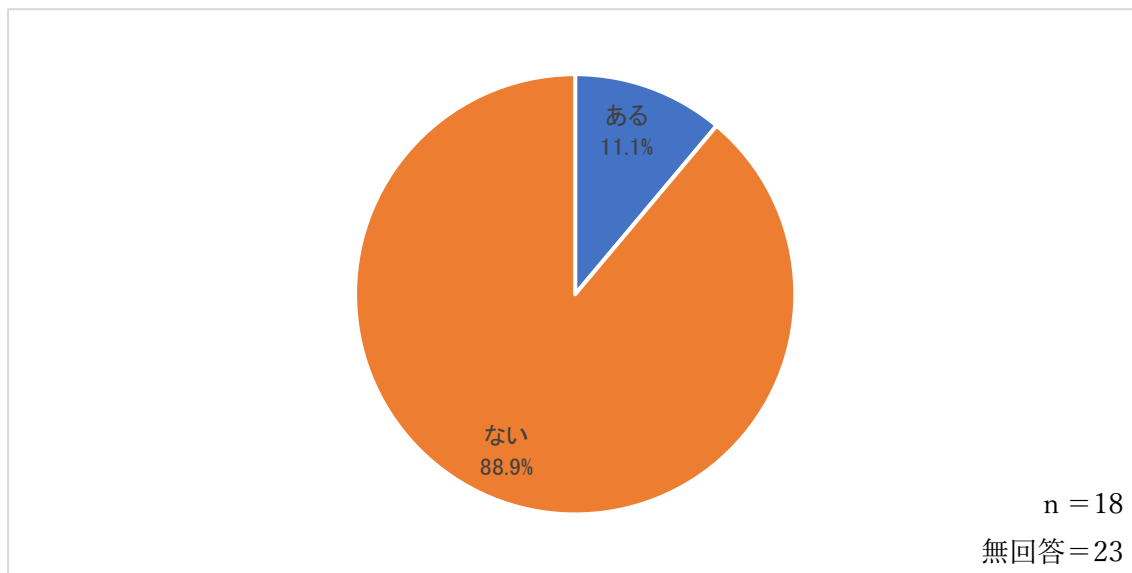
(3) 家族（患者）の入院付添いを求められた際に困ったこと（複数回答）

家族（患者）の付添いを求められた経験が「ある」と回答した人について、家族（患者）の付添いを求められた際に困ったことは「満足な食事が取れなかった」「十分な睡眠が取れなかった」がそれぞれ57.1%（4件）と最も多かった。



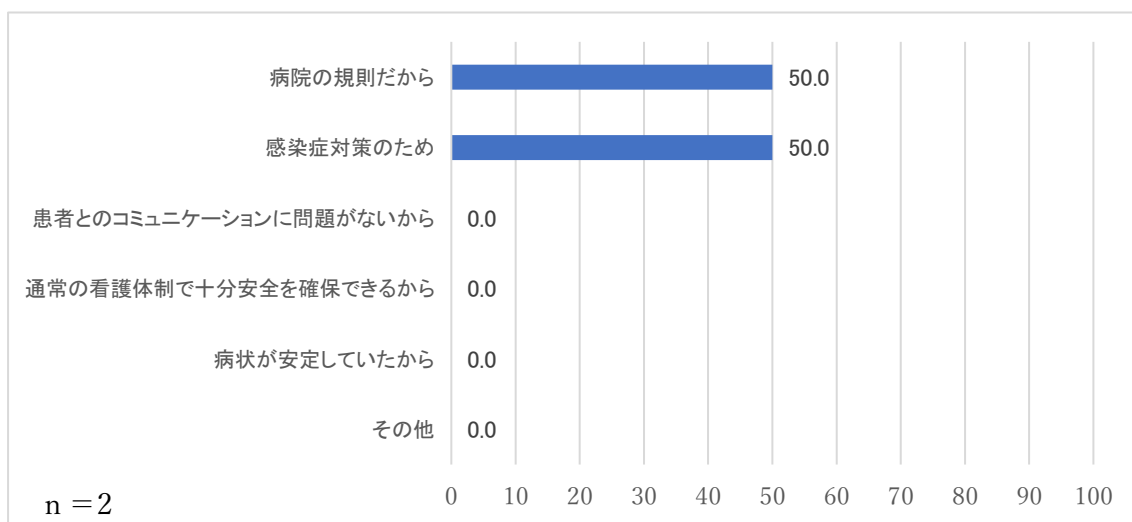
(4) 家族（患者）の入院付添いを断られた経験の有無（単数回答）

これまでに家族（患者）が入院したことのある他の病院での付添いにおいて、家族（患者）の付添いを断られた経験の有無は「ある」が 11.1%（2 件）、「ない」が 88.9%（16 件）であった。



(5) 家族（患者）の入院付添いを断られた理由（複数回答）

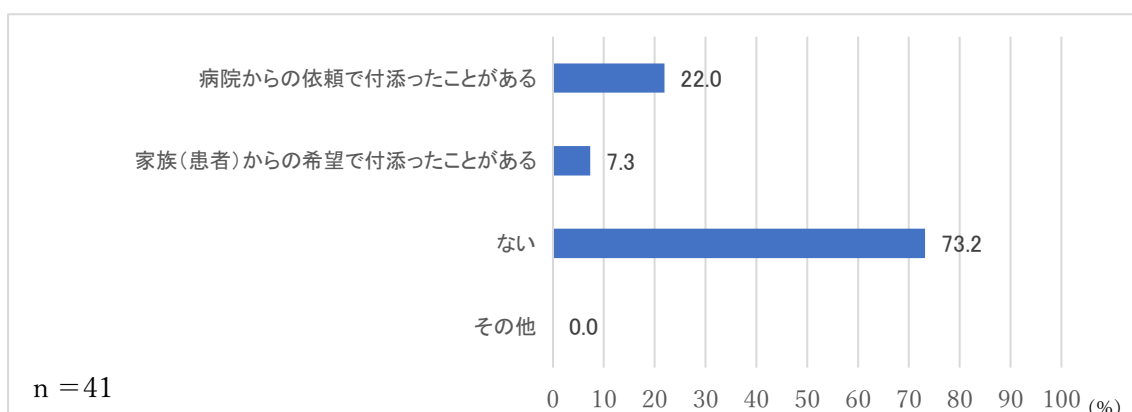
家族（患者）の付添いを断られた経験が「ある」と回答した人について、付添いを断られた理由は「病院の規則だから」「感染症対策のため」がそれぞれ 1 件ずつであった。



4. これまでに家族（患者）が入院したことがある全ての病院での付添いについて

（１）家族（患者）の付添いを希望しないにも関わらず付添いをした経験の有無（複数回答）

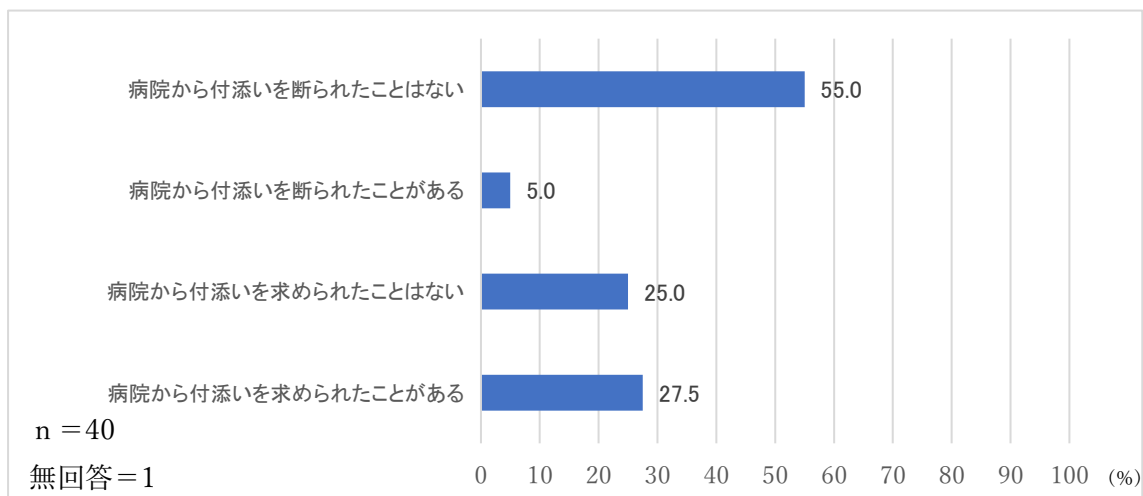
これまでに家族（患者）が入院したことがある全ての病院での付添いにおいて、家族（患者）の付添いを希望しないにも関わらず付添いをした経験は「ない」が 73.2%（30 件）、「病院からの依頼で付き添ったことがある」が 22.0%（9 件）であった。



（２）病院から家族（患者）の付添いを求められたことや、付添いを希望したにもかかわらず付添いを断られた経験の有無（複数回答）

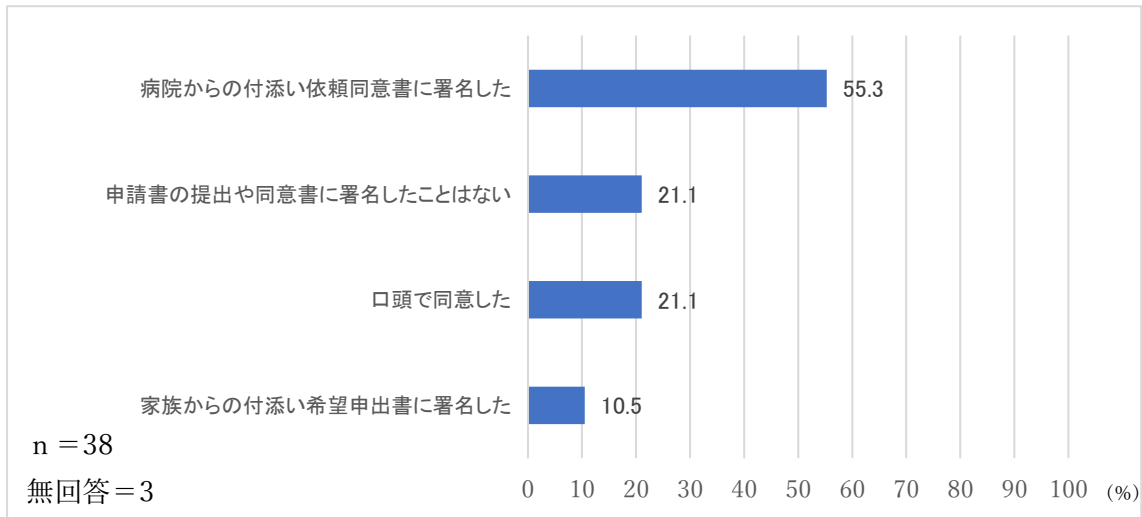
これまでに家族（患者）が入院したことがある全ての病院での付添いにおいて、付添いを断られた経験は「病院に付添いを断られたことはない」が 55.0%（22 件）、「病院から付添いを断られたことがある」が 5.0%（2 件）であった。

また、病院から付添いを求められた経験は「病院から付添いを求められたことはない」が 25.0%（10 件）、「病院から付添いを求められたことがある」は 27.5%（11 件）であった。



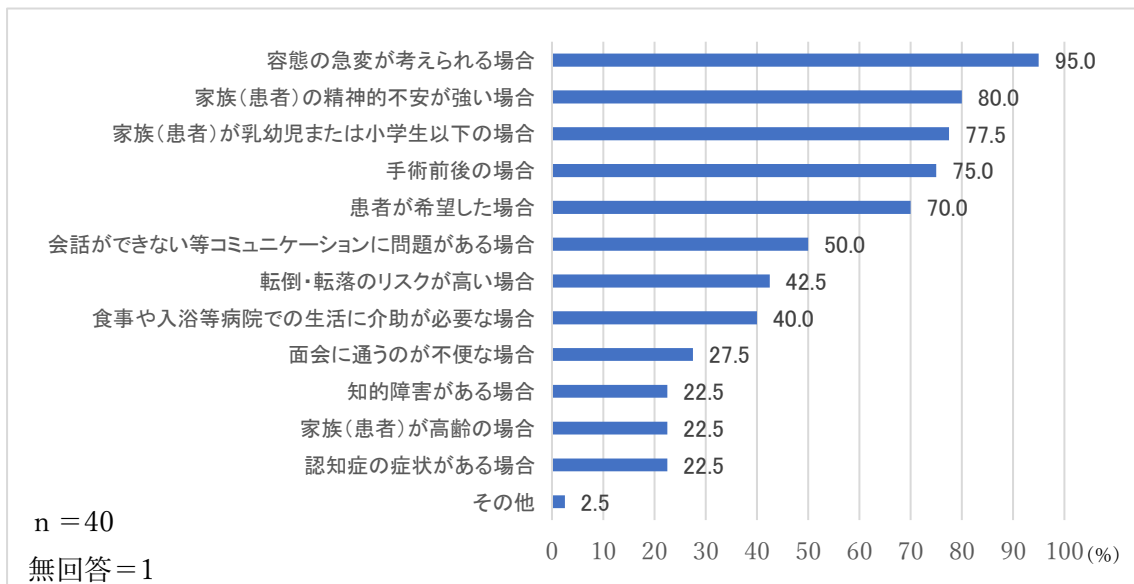
(3) 書面により付添いに関する希望または同意署名等を行った経験の有無（複数回答）

これまでに家族（患者）が入院したことがある全ての病院での付添いにおいて、書面により付添いに関する希望または同意署名等を行った経験は「病院からの付添い依頼同意書に署名した」が 55.3%（21 件）と最も多く、次いで「申請書の提出や同意書に署名したことはない」「口頭で同意した」がそれぞれ 21.1%（8 件）であった。



(4) 家族（患者）の付添いをしたいと思う場面（複数回答）

これまでに家族（患者）が入院したことがある全ての病院での付添いにおいて、家族（患者）の付添いをしたいと思う場面は「容体の急変が考えられる場合」が 95.0%（38 件）と最も多く、次いで「家族（患者）の精神的不安が強い場合」が 80.0%（32 件）であった。



(5) これまでに、ご家族（患者）の付添いにおいて困った経験（自由記述）

患者家族等に入院患者の付添いについて困っていることや、課題に感じていることを尋ねたところ、以下のような意見が挙げられた。n=16

- 食事の提供がない 7 件
- 他の家族の世話ができない 4 件
- コロナ禍で付添者の交代・外出・面会が制限された 4 件
- 寝具の提供が無かった、十分ではなかった 2 件
- 院内の通信環境が悪い 2 件
- その他 7 件

A 病院

1. 基本情報

(1)入院患者の受け入れが可能な診療科

- ・ 19 の診療科がある中で、耳鼻科、精神科、頭の疾患系以外のほとんどの診療科で入院患者の受け入れが可能である。

(2)診療科別の入院患者数(月または年)および年齢構成

- ・ 入院患者は内科、外科、整形外科、泌尿器科、循環器科などが多く、中でも整形外科、内科は特に多い。

(3)診療科別の入院付添い件数(月または年)

- ・ 小児科の入院患者はほとんど付添いがあるため、実施件数は月 20 件ほどになる。年間の件数は 200～300 件ほどになる。
- ・ 終末期の患者の付添いの実施件数は月に 2,3 件であり、年間 100 件前後になることもある。終末期の患者の年齢は幅広く、高齢者とは限らない。

(4)病院全体または診療科別の入院付添いに対する考え方・ルール

- ・ 基本的には患者の不安が強い、家族の希望が強い場合にのみ付添いをしてもらっている。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大前は患者が手術の際に付添いを許可することがあったが、拡大後は感染予防のためにかなり制限をしており、家族が希望しても患者が重症でない場合は遠慮してもらっている。

2. 入院付添い状況について

(1)病院側から依頼するケース

①入院患者の病状により、付添いを依頼するケースにはどういった場合があるか

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大前は患者が認知症で離院の可能性がある場合や手術後で危険がある場合などに、患者の安全を守るために付き添いを依頼することがあった。

②小児患者または知的障害を有する入院患者等の場合に、付添いを依頼するケースにはどういった場合があるか

- ・ 小児科で小学生以下の患者が入院する際は、ほとんどの場合付添いがある。
- ・ 小学生以上で自立して生活できる患者は付添いがないこともあるが、精神的不安が強い、一人で寝られない 15 歳以下の患者が入院する場合は付添いの判断をしている。
- ・ 患者が新生児の場合は母親が育児に慣れるために入院付添いをお願いすることがある。
- ・ 知的障害を有する患者の中には自分でなんでもできる方もいるが、暴れて危ない患者

の場合には付添いをお願いすることがあった。

③1日あたりの時間数・内容等

- ・ 小児患者の場合は基本的に終日付添いを行っている。
- ・ 大人の患者の場合は患者家族の意向に合わせて付添いを行っているため、日中のみの付添いが多い。ただし、患者の容体によっては終日の付添いを依頼する場合もある。
- ・ 付き添い期間中の患者家族には、患者に何かあれば看護師を呼ぶよう依頼している。
- ・ 小児患者の場合、患者家族に身の回りのことを一部任せることはあるが、検温などは基本的に看護師が行っている。在宅移行に向けて子供のバイタル計測について指導するときに患者家族に計測をお願いすることがある。

(2)入院患者または家族等から希望するケース

①医師の許可を得て付添うケースについてどういう場合があるか

- ・ 患者が重症や認知症の場合
- ・ 小児患者の場合に家族から希望されて許可するケースもある。

②1日あたりの時間数・内容等

- ・ 病院から依頼する場合と同じ

③付添いを希望するも医師の許可を得られず付き添わないケースについてどういう場合があるか

- ・ 患者が重症ではないのに、家族が不安で付添いを希望する場合

3. 患者または家族等への説明について

(1)説明方法

- ・ 小児患者の場合、入院する前に付添いの可能性があることを説明している。
- ・ 大人の患者の場合には入院時や病状の段階に応じて説明をしている。
- ・ 認知症・知的障害を持った患者には、入院時に付添いの可能性を説明する場合がある。

(2)説明内容

- ・ 付添いの可否や条件について、また食事がないことなどを説明している。
- ・ 小児患者は相部屋、大人の患者は個室で付添いを行っている。基本的には女性に付き添ってもらうことが多いが、男性が付き添う場合は部屋調整で個室移動が必要であると説明をしている。
- ・ 小児患者が入院する場合、外来の段階で家族に付添いについて説明している。
- ・ 小児患者の付添いを依頼する理由は「子供の安心のため」と説明している。
- ・ 入院時にだいたい入院期間は説明している。

(3)説明者

- ・ 医師または看護師
- ・ 看護師が説明する場合は、医師が伝えたい内容を看護師が代わりに伝えている。

(4)家族の理解度の確認方法

- ・ 口頭で説明し、付添い許可願いに署名してもらっている。パンフレット等はない。

(5)同意署名等で理解度の確認を行う場合、書面にはどのような内容を記載しているか。

- ・ 書面には理解度確認の項目はない。

以上

B 病院

1. 基本情報

(1)入院患者の受け入れが可能な診療科

- ・ 下記の 22 診療科で受け入れが可能
内科、呼吸器内科、循環器内科、外科・乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、
心臓血管外科、小児科、小児外科、産科・婦人科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼
科、脳神経内科、精神科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、リウマチ科、歯
科・歯科口腔外科

(2)診療科別の入院患者数(月または年)および年齢構成

- ・ 全体では 604 名（2021 年 8 月の 1 か月間）、65 歳以上が多い傾向にある。
- ・ 特に入院患者数が多い診療科は内科、循環器内科、外科である。
- ・ 小児科は月平均約 30 名の入院患者がいる。

(3)診療科別の入院付添い件数(月または年)

- ・ 小児科では入院患者の内、多い時で 5 割程度は付添いを行っている。小児の中でも就
学前の患者は付添いが多い傾向にある。
- ・ 小児科以外は診療科に関わらず、患者が認知症の高齢者や症状が重篤・危篤の場合に付
添いが多い傾向があり、件数はコロナ前後関係なく月に数件ほどであった。

(4)病院全体または診療科別の入院付添いに対する考え方・ルール

- ・ 原則付添いは必要ないということになっている。その上で付添いの実施基準に該当す
る場合は、付添いについて説明をし、家族が申請書を提出すれば付添いを許可している。
これは小児含むどの診療科でも同様である。

【付添い実施基準】

- ・ 患者の病状、重症・危篤などから医師が必要と認める場合
- ・ 治療に対する理解が困難な小児患者で医師が必要と認める場合
- ・ 患者との意思疎通が十分に取れないと医師が判断した場合
- ・ その他医師が必要と認める場合

2. 入院付添い状況について

(1) 病院側から依頼するケース

① 入院患者の病状により、付添いを依頼するケースにはどうい

- ・ 病院で定めた付添いの実施基準に当てはまる場合は患者家族に依頼をし、承諾されたら付添いを実施している。

② 小児患者または知的障害を有する入院患者等の場合に、付添いを依頼するケースにはどうい

- ・ 小児科の入院患者が親と離れることで精神的不安がある場合には病院から家族に付添いを依頼することがある。
- ・ 小児患者の家族が付添いを希望しない場合、詰所のそばに用意している 10 床ほどの部屋に入院してもらい、看護師が見るようにしている。ただし、多目的室には術後の観察を要する患者が多く入院しているため、満床になってしまった際には患者家族に付添いの依頼をすることがある。

③ 1 日あたりの時間数・内容等

- ・ できるだけ患者家族の希望するかたちをとるようにしているが、患者が危篤の場合など、タイミングによっては付添いが必須であるため、終日患者のそばを離れないようお願いすることがある。

(2) 入院患者または家族等から希望するケース

① 医師の許可を得て付添うケースについてどうい

- ・ 入退院を繰り返している小児科のご家族は当院の看護師が忙しくしている様子を見ているため、病院から依頼しなくても付添いを希望してくれている。小児の場合、初めての入院の場合は子供が心配だから付添いを希望されることがほとんどである。
- ・ 患者家族が子供への愛着形成が強い場合、子供である患者が付添いが必要ない年齢でも付添いを希望されることがある。
- ・ また、患者家族が病院・医療者へ不信任感を強く持っている場合に、付添いを希望されることがある。
- ・ 特に小児外科の患者家族からは手術前後に付添いたいと希望されることが多い。

② 1 日あたりの時間数・内容等

- ・ 小児科の場合は患者家族の意向もあり、24 時間付添いをするケースがほとんどである。
- ・ 普段自宅ですべての世話をしている患者の身の回りの世話については家族が積極的に行ってくれている。
- ・ 患者家族が食事や清潔保持を行う時間は小児科に在中している保母・看護師が子ども

の付添いを行っている。現在は 8 名の保育士を採用しており、日勤と夜勤に分かれて対応してもらっている。

- ・ 付添い期間は申請書類を提出するときに希望をきいて設定する。患者家族が生活しやすい環境ではないため、できるだけ少なく設定するよう提案している。

③付添いを希望するも医師の許可を得られず付き添わないケースについてどういふ場合があるか

- ・ 虐待防止委員会があり、事前に子供に危害を加える可能性がある患者家族については付添いを許可しないようにしている。外来で診察を受けた際や母子総合周産期の時点等で可能性がある判断した場合にソーシャルワーカーと事前に話をして準備をする。
- ・ 子供に強い感染症があり、保護者にも感染する可能性がある場合には付添いを許可しないようにしている。

3. 患者または家族等への説明について

(1)説明方法

- ・ 付添いが必要だと判断したタイミングで医師から付添いの説明を行っている。その後で詳細について看護師から説明をしている。最終的に付添いの申請書を医師と看護師長が確認して付添いを許可している。
- ・ 説明の際には入院のしおり、付添いをされる家族向けのオリエンテーションの書類（口頭で説明した内容の確認用に渡している）を使い、書類と口頭の両方で説明している。

(2)説明内容

- ・ 付添いの実施に関することや付添いの申請書類について、院内の避難経路や設備、食事等の生活に関わることの説明を行っている。

(3)説明者

- ・ 付添いの実施に関しては医師、詳細については看護師が行っている。

(4)家族の理解度の確認方法

- ・ 口頭で確認している。

(5)同意署名等で理解度の確認を行う場合、書面にはどのような内容を記載しているか。

—

以上

C 病院

1. 基本情報

(1)入院患者の受け入れが可能な診療科

- ・ 療養病棟と一般病棟

(2)診療科別の入院患者数(月または年)および年齢構成

- ・ 療養病床 約 28 人 80～90 歳代 (100 歳代もまれにいる)
- ・ 一般病床 約 38～40 人 70～80 歳代

(3)診療科別の入院付添い件数(月または年)

- ・ 入院付添いの実施はほとんど無く、高齢の患者の付添いが年間で数件ある程度である。
- ・ 患者に精神疾患がある場合やターミナル期の場合に実施することがある。
- ・ 高齢者以外の成人の付添いはほとんど無い。

(4)病院全体または診療科別の入院付添いに対する考え方・ルール

- ・ 医師が必要と判断した場合に付添いを依頼することもあるが、基本的には患者・家族の意向を主としている。

2. 入院付添い状況について

(1)病院側から依頼するケース

①入院患者の病状により、付添いを依頼するケースにはどのような場合があるか

- ・ 療養病棟の付添いの実施は基本的に無い。あるとしたら終末期に最後の数日間付添う稀なケースのみである。
- ・ 一般病棟の患者については精神疾患があつて家族が離れられない場合や、付添いを実施しなければ治療に影響する場合に、家族に相談の上付添いを依頼することがある。
- ・ 患者家族が遠方にいる方が多く、また老老介護を実施しているケースが多いため、入院を機に家族の休息をすすめるようにしている。ターミナルの場合に日中だけ、夜間だけ等、家族の付添い意向に合わせて付添いを実施することもある。
- ・ また、熱中症や脱水症状で点滴の輸液管理が継続的に必要な場合に、点滴の抜針の恐れがある患者に関しては患者の精神的不安を解消するためにも付添いを依頼することがある。その場合、患者が慣れて落ち着いてきたら付添いの実施をやめる。家族が付添いできない場合は医師が別の手段を考える。

②小児患者または知的障害を有する入院患者等の場合に、付添いを依頼するケースにはどうい う場合があるか

- ・ 小児は診療自体があまりないため、入院はほとんどない。

③1日あたりの時間数・内容等

- ・ 付添いを行う時間は家族の意向に合わせて実施している。
- ・ 複数の家族が交代で付添いを行うケースもある。
- ・ 昼間はお昼から夕方まで、夜間の場合は患者家族がお風呂に入ってから付添うことが多い。
- ・ 病院の近くに住んでいる家族の場合は日中・夜間だけの付添いをすることもあるが、遠方の場合は終日付き添うケースが多い。全体で見ると終日付添いをするケースの方が少ない。

(2)入院患者または家族等から希望するケース

①医師の許可を得て付添うケースについてどうい場合があるか

- ・ 患者がターミナル期で家族が付添いを希望する場合に、医師の判断で患者の病状によって必要であれば許可をすることがある。遠方の娘・息子が両親に付添いたいと強く希望するケースが多い。
- ・ めったにないケースであるが、高齢の夫婦の片方が入院する際にもう片方を見る人がおらず、地元の施設に相談しても引き取ってもらえなかったときに、付添いという形で一緒に入院してもらったことがあった。こういったケースには地域のケアマネジャーや施設の相談員、役所等に相談して協力してもらいながら対応している。

②1日あたりの時間数・内容等

- ・ 医師から依頼する場合と同じ。

③付添いを希望するも医師の許可を得られず付き添わないケースについてどうい場合があるか

- ・ 患者家族が病院のルールを守ってくれない場合は付添いを断っている。例えば付添いをする人数が増えた場合に断ることはある。
- ・ 現在は新型コロナウイルス感染拡大の影響で付添いを希望されてもなるべく断るようになっている。ターミナル期の患者の場合はやむを得ず実施する場合もある。

3. 患者または家族等への説明について

(1)説明方法

- ・ 患者の入院時に基本的に付添いはできないと説明後、家族のほうから希望があった場合に付添いの実施について説明をする。

- ・ 入院後に付添いが必要だと医師が判断した場合は、医師から家族に付添いの相談をしている。
- ・ 患者に精神的不安がある場合や認知症の場合など、患者の入院時の状況や背景によって付添いが必要そうだと判断した場合は事前に医師から家族に相談して付添いを決めることがある。
- ・ 患者家族が急に付添いを依頼されることはない。家族によっては付添いを出来ない場合もあるため、その際の対応等も事前に家族と相談している。

(2)説明内容

- ・ 患者の状態に合わせて説明しているが、基本的に長期付添いはできないということは伝えている。また、患者の状態によっては付添いできなくなることも伝えている。
- ・ 患者の状態が重篤な場合、精神的な不安がある場合や認知症による問題行動がある場合、高齢者で入院環境への適応が難しい場合など、当てはまる項目について医師から患者や家族に付添いの説明と依頼を行っている。基本的に申請書類に沿った説明を行っている。

(3)説明者

- ・ 基本は医師が病状等の説明の際に一緒に説明する。
- ・ 医師の話を看護師が代わりに伝えるケースもある。また、患者・家族から看護師に付添いの相談があった場合は、医師に相談してから付添いの説明をしている。
- ・ ターミナル期の患者の場合は家族等が来院するタイミングで都度医師が説明している。

(4)家族の理解度の確認方法

- ・ 患者家族には付添いについて説明をした上で許可申請書を書いてもらっている。
- ・ 申請書の提出があった時点で説明の内容は理解されたという認識でいる。

(5)同意署名等で理解度の確認を行う場合、書面にはどのような内容を記載しているか。

- ・ 許可申請書には説明内容と同様の確認項目があり、署名をもらうようになっている。
- ・ 付添いに関する理解度については医師が説明の際に確認しており、付添い承諾の有無は電子カルテにも入力されている。

以上

D 病院

1. 基本情報

(1)入院患者の受け入れが可能な診療科

- ・ 内科（糖尿病内科含む）
- ・ 脳神経内科
- ・ 小児科
- ・ 外科
- ・ 整形外科
- ・ 泌尿器科

(2)診療科別の入院患者数(月または年)および年齢構成

(2021 年 11 月の新患の入院患者数)

- ・ 内科：49
- ・ 脳神経内科：8
- ・ 小児科：6
- ・ 外科：62
- ・ 整形外科：27
- ・ 泌尿器科：4

(3)診療科別の入院付添い件数(月または年)

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大の影響で入院付添いは病棟のルールが厳しくなっており、小児以外の付添いは各病棟に 1 人もいない状況である。
- ・ 同医療圏で入院できる小児科は当病院しかなく、0 歳～4 歳の保護者が必要な乳幼児も入院している。小児科は 10 歳以下の患者が 9 割を占めており、入院が必要な場合はコロナ禍でも家族等に付添いをお願いしている。
- ・ コロナ以前は小児患者以外でも、患者が認知症で精神的に不安定な場合など、医師が認めた場合に付添いを認めることはあったが、年間 50～60 件程であった。

(4)病院全体または診療科別の入院付添いに対する考え方・ルール

- ・ 看護は当院の看護要員によって行われるものであり、患者及び家族の負担による付き添いを行ってはならない。
- ・ 患者病状により医師が認めた場合、または家族が希望する場合に限り医師の許可を得て付き添うことができる。
- ・ 入院付添いに関して、小児科の場合は個別に対応している。小児の付添いに関しては厳密な許可基準は無い。

- ・ 入院患者に渡す説明書に記載している入院付添いの許可基準は下記の通りである。

【入院付添いの許可基準】

- ① 症状が重篤、手術後急変が考えられる場合
 - ② 精神的に不安定な患者や認知症の患者で、入院直後など環境の変化に適応できず、家族がいることで精神状態の安定が図れる場合
 - ③ 認知症や難聴、高齢の患者で意思疎通が不十分なため、家族の補佐が必要な場合
 - ④ その他、主治医が必要と認める場合
(コロナ禍の入院付添いの実施については小児科、認知症などが大半であるが、コロナ以前は症状有無だけでなく主治医の判断に委ねられていた部分が多かった。)
- ・ ルールは組織全体で共通しているものではないが、近隣の同じ組織の病院の意見を参考に作成している。

2. 入院付添い状況について

(1) 病院側から依頼するケース

① 入院患者の病状により、付添いを依頼するケースにはどういった場合があるか

- ・ 病院から付添いを依頼することはほとんどないが、入院患者が大声を出すなど、手に負えないときは依頼する場合がある。
- ・ コロナ前は患者が暴れるなど、患者に何かあれば宿泊なしでも患者家族等に来てもらうことができたが、現在は病院で完結している。

② 小児患者または知的障害を有する入院患者等の場合に、付添いを依頼するケースにはどういった場合があるか

- ・ 小児科は 10 歳以下の患者が 9 割を占めているため、小児患者で入院が必要な場合は、基本的に家族等に付添いをお願いしている。

③ 1 日あたりの時間数・内容等

- ・ 当病院の付き添いの概念は、24 時間患者のそばにすることである。付添いの申請書も日中のみの付添いの場合は提出を求めている。
- ・ 小児患者の場合も小児以外の患者の場合も、患者のケアは看護師が行い、基本的に家族は傍にいる程度である。
- ・ 患者が排泄した場合に教えてもらって看護側で対処するなど、家族がケア等を行うことは無い。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策のため、入院付添いを行う患者家族等の交代を認めないルールになったため、家族等は病院に入ったら退院まで出られない。
- ・ 付添いを行う患者家族等がシャワー等で患者から離れる際には看護師がベッドサイドに居る、抱っこをするなどを行っている。

(2)入院患者または家族等から希望するケース

①医師の許可を得て付添うケースについてどういふ場合があるか

- ・ 認知症や終末期の場合など、医師が病状を説明した際に家族から希望があれば、医師の判断で付添いを認める場合があったが、新型コロナウイルス感染拡大以降はほとんど無くなっている。

②1日あたりの時間数・内容等

- ・ 病院側から依頼するケースと同じ。

③付添いを希望するも医師の許可を得られず付き添わないケースについてどういふ場合があるか

- ・ 入院付添いの許可基準から外れていると判断された場合、ただ傍にいたいだけでは付添いは許可されない。そのため最近是在宅診療へ移行がかなり増えた。

3. 患者または家族等への説明について

(1)説明方法

- ・ 入院時に入院のご案内のパンフレット渡しているが、基本的に付き添いは許可されていないと説明している。
- ・ 手術後の状態がよくないときなど、主治医が家族に病状を説明した際に、家族から申し出があれば付添いについて説明している。
- ・ また医師から付添いに関する説明を受けた後で、身近にいる看護師に家族が付添いの相談をした場合は、看護師長が付添いの詳細や申請書類に関する説明を行う。

(2)説明内容

- ・ 申請書類に関する説明時には付添いの期間（なるべく短くしなければならない）、食事（食事の提供無し）やベッド（業者のレンタルベッドがある）についてなど、付添いの詳細についての説明があり、患者家族が記入した申請書は、師長・医師が確認し、病院長に提出され、原本は病院で保管される。患者家族には申請書類のコピーを渡している。

(3)説明者

- ・ 付添いの実施については医師から説明を行っている。
- ・ 申請書類や付添いの詳細に関する説明は原則師長が行っており、不在時は師長代理またはリーダー看護師が行っている。

(4)家族の理解度の確認方法

- ・ 申請書類に記入いただくことで、説明に関して理解・同意したと判断している。

(5)同意署名等で理解度の確認を行う場合、書面にはどのような内容を記載しているか。

- ・ 書面は特に理解度を確認する内容ではない。

以上

E 病院

1. 基本情報

(1)入院患者の受け入れが可能な診療科

- ・ 32 の診療科があり、ほとんどの科で入院患者の受け入れが可能となっている。

(2)診療科別の入院患者数(月または年)および年齢構成

- ・ 2021 年 8 月の入院患者数は 929 人であった。
- ・ 全体的には 75 歳以上の高齢者が多い。
- ・ スポーツ整形外科の入院患者は 10 代が多い。
- ・ 小児科は診療自体が少なく、入院は年に数件あるかどうかである。

(3)診療科別の入院付添い件数(月または年)

- ・ 主治医の許可があればどの科でも付添いは可能であるが、長期的な付添いは無い。
- ・ 回復期の患者の付添い実施件数は多い時で月 5 件程だが、現在は対象者がいない。
- ・ 看取りの患者の付添い実施件数は月 5～6 件程である。

(4)病院全体または診療科別の入院付添いに対する考え方・ルール

- ・ 基本的に付添いは許可していない。
- ・ 患者の手術の当日は家族に付添いをお願いしている。
- ・ 患者の病状が急変した場合や看取りの場合は主治医の許可のもと、付添いをお願いしている。

2. 入院付添い状況について

(1)病院側から依頼するケース

①入院患者の病状により、付添いを依頼するケースにはどういった場合があるか

- ・ 患者の病状において命にかかわるような急変が考えられる場合には一度家族に来てもらい、患者の様子を見た家族が希望すれば付添いを許可している。
- ・ 看取りの患者の場合に付添いのために家族にお願いして病院に 1～2 泊してもらうことがある。

②小児患者または知的障害を有する入院患者等の場合に、付添いを依頼するケースにはどういった場合があるか

- ・ 小児の入院患者についてはほとんど付添いをお願いしている。子供が小さい場合は何があるかわからない、子供が不安になる等の理由で家族等に付添いをお願いしている。
- ・ スポーツ整形外科の 10 代の患者の場合、手術の前後に日中のみ付添いをしてもらうこ

とがある。

②1 日あたりの時間数・内容等

- ・ ケースにもよるが、希望があれば 24 時間の付添いを許可している。
- ・ 小児患者の場合に家族が、着替え、食事の介助、おむつ交換等の日常生活に関わるようなことを一部行うことはあるが、医療に関わるケア（点滴、検温、バイタル等）の手伝いはしていない。

(2)入院患者または家族等から希望するケース

①医師の許可を得て付添うケースについてどういふ場合があるか

- ・ 入院患者が知的障害を持っている場合に家族から付添いを希望されて許可することがある。普段から患者身の回りの世話を家族が行っており、入院中も同様に行いたいと言われることが多い。
- ・ 入院患者が認知症の場合に看護師の対応に不満があつて付添いを希望されることがあつたが、そのようなケースは稀である。
- ・ 回復期リハビリテーション病棟の患者の食事介助を学ぶために、食事の時間だけ家族が付添いをすることを許可することがある。
- ・ 血液内科病棟には白血病等で若者から高齢者まで幅広く入院しており、新型コロナウイルス感染拡大以前は家族が付添いすることも多かった。

②1 日あたりの時間数・内容等

- ・ ケースにもよるが、希望があれば 24 時間の付添いを許可している。
- ・ 患者が認知症や知的障害を有している場合様に日常生活のケアを家族が希望して行うことがある。

③付添いを希望するも医師の許可を得られず付き添わないケースについてどういふ場合があるか

- ・ 身体障害で発語が出来ない患者について、意思疎通ができるか心配で家族が付添いを希望したことがあつたが、コロナ禍であつたため付添いは許可しなかつた。
- ・ 県外の患者家族等には、コロナウイルスが非常に流行していた時期は病院内に入ること自体を制限しており、10 分程度の短い面会程度しか許可しなかつた。
- ・ 現在は、PCR 検査とワクチン接種の確認を行った上で主治医から許可が出れば、短時間だけ面会という形で付添いが出来るようになっている。

3. 患者または家族等への説明について

(1)説明方法

- ・ 入院時に入退院支援センターのスタッフが基本的に付添いは許可していないという内

容を説明している。また、手術や看取りなどによる入院の場合は、付添いが必要になる可能性があることも説明している。

- ・ 付添いに関する具体的な説明（病院のルールなど）は付添いの必要が出てきたタイミングで担当の看護師が説明している。

(2)説明内容

- ・ 看護師が付添いの実施について説明を行った後、家族が付添いを希望したら、付き添い期間中の食事やベッド等の設備の説明を行っている。

(3)説明者

- ・ 看護師

(4)家族の理解度の確認方法

- ・ 説明に対する理解度は口頭で確認している。

(5)同意署名等で理解度の確認を行う場合、書面にはどのような内容を記載しているか。

-

以上

患者家族 A

1. 基本情報

(1) 患者の年齢

- ・ 3 歳未満

(2) 家族等の年齢、患者との関係

- ・ 30 代
- ・ 母親

(3) 病院選定理由

- ・ 患者が生まれてすぐに手術をして入院した。
- ・ その病院でしか患者の対応ができず、病院を選択することができなかった。

(4) 入院期間

- ・ トータルで 1 年間程入院付添いを行った。
- ・ 入院付添いが必要な期間は当初 2 泊 3 日と説明されていたが、患者の検査結果が良くならなかったため、医師から口頭で延長について説明があり、患者の様子を見ながら少しずつ期間を延長することとなった。
- ・ 付添者が帰宅することができたのは 1 年間の付き添い期間の内 60 日間程であった。患者は手術を 4 回受け、手術後に調子が良い時は一緒に家に帰ることができた。
- ・ 1 か月の内 10 日間はナースステーションの横の部屋で患者を預かってもらい、付添い者は家に帰ることができた。

2. 入院付添い状況について

(1) 病院側から依頼されたケースについて

① 入院付添いを求められた理由

- ・ 病院から付添い依頼があり、付添いは当たり前だと思ったため承諾した。

② 病院からの依頼に対する納得感

- ・ 付添いをするのが当たり前だと思っていたため特に何も疑問に思わなかった。

③ 1 日あたりの時間数・内容等

- ・ 付添い期間中は終日付添いを行った。院内に保育士がいたため、付添い者のお風呂・食事の時間として 1 日あたりトータル 1 時間弱は患者を見てもらうことができた。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大の影響で付添いを者の交代ができず、1 人で付添いを行った

- ・ 付添いを始めた当初はほかの家族から着替えや生活に必要なものを持ってきてもらっていたが、院内の洗濯機を利用したり、生活に必要なものをコンビニで買うようになった。
- ・ 患者の着替えなどは付添い者が行ったが、検温などは看護師が行った。
- ・ 尿量・便の回数・飲んだミルク・離乳食の量などはチェックシートに記入して看護師に提出した。
- ・ 患者に薬を飲ませることや食事等は自宅に帰ってから困らないように練習として始まり、実施していた。
- ・ 最初の2か月半は相部屋だったが、入院期間が長くなり生活にストレスを感じ、有料で個室に移った。
- ・ 付添い者の食事は病院内のコンビニで自分で買っていた。
- ・ 夜間は子供と一緒に寝ていたが、点滴の管がたくさんあり不安だったため、簡易ベッドを買って持ち込んだ。

3. 病院からの説明について

(1) 誰から、いつ、どのような方法で、どのような説明を受けたか

- ・ 術後、患者がICUに入院していた時に、看護師から口頭で軽く付添いの説明があり、「一般病棟に移ったらいつでも寝泊まりできるように準備しておいてください」と言われた。仕事を休む手続きや他の上の子どものこともあり、説明から1か月弱くらい経ったあとに付添いを開始した。
- ・ 付添いの日にちが決まったときに、口頭で付添い者の生活必需品の持参について軽く説明があったが不十分だったため、ネットで持参品を調べた。
- ・ 付添い承諾書に署名は都度していたが、入院に関する書類がたくさんあったので内容の把握はしていない。付添い者側からお願いして付添いをしたという書面もあったと聞いた。

(2) 説明内容は十分理解できたか

- ・ 最初は2泊と言われていたので納得する間もなく慌てて準備を行った。

(3) どのような説明があれば良かったか

- ・ 説明の有無というより、事前に辛さを教えてほしかった。説明を聞いて想像していた状況と現実にギャップがあり、さらに長期間だったため辛かった。
- ・ 付き添い期間中は生活面でストレスを感じた。相部屋、設備、食事など。付添いをすることを前提に整備されていないと感じた。短期間ならよいが、長期間だと生活できない。

以上

患者家族 B

1. 基本情報

(1) 患者の年齢

- ・ 3 歳未満

(2) 家族等の年齢、患者との関係

- ・ 40 代
- ・ 母親

(3) 病院選定理由

- ・ 患者が出生した病院であるため。

(4) 入院期間

- ・ 1 年間入院付添いを行ったが、事前に入院期間は言われなかった。

2. 入院付添い状況について

(1) 病院側から依頼されたケースについて

① 入院付添いを求められた理由

- ・ 病院からの要請を受けたが自分からも希望した。

② 病院からの依頼に対する納得感

- ・ 納得している。

③ 1 日あたりの時間数・内容等

- ・ 1 日中患者に付きっきりの時もあるが、付添いなしで病院の看護師に 1 週間預けることもあった。その時は、10 人の患者がいて常時看護師がいる相部屋で患者を見てもらっていた。
- ・ 子供に関わること全般、食事、おむつ交換など家でやっていることは看護師にやってもらおうとは思わなかったため付添い者自身が行っていた。
- ・ 体温測定は看護師と付添い者で臨機応変に行った。
- ・ 付添い者がシャワーや食事の買い物を行う 30 分間は、常時病院にいる保育士が毎日決まった時間枠で来てくれた。
- ・ 夜間は付添い者が患者に添い寝することが基本で、付添い者の布団は病院で無料で用意された。
- ・ 他の家族との交代も行ったが、遠方に住んでおり、交代は 1 か月に 1，2 回程度であった。

3. 病院からの説明について

(1) 誰から、いつ、どのような方法で、どのような説明を受けたか

- ・ 看護師から入院初日に口頭・書面にて1時間程度、説明を受けた。
- ・ 説明内容は入院全般について、患者の症状について、付添いについて、患者に対してしてほしいこと等であった。
- ・ 患者に対してしてほしいことに関する説明は、入院してからも都度あった。

(2) 説明内容は十分理解できたか

- ・ 納得できた。
- ・ 書面で付添いに関しての同意書に署名した。

(3) どのような説明があれば良かったか

- ・ 病院からは都度説明してもらって、解決していた。
- ・ 今後また家族等が入院することになった際に同じ病院に入院したいと思うし付添いもしたい。
- ・ 付添いができないなら、それはそれで責任を持って対応してくれる病院であれば問題ないと思う。

以上

患者家族 C

1. 基本情報

(1) 患者の年齢

- ・ 3 歳未満

(2) 家族等の年齢、患者との関係

- ・ 30 代
- ・ 母親

(3) 病院選定理由

- ・ 付き添いできる病院で一番近い病院だったため。
- ・ 入院時、患者は 1 歳で物心がつき始めており、付添いをする方が安心だと思った。患者のメンタル的にも付き添いできる病院のほうが良いと思った。
- ・ 患者が初めに搬送されたクリニックの医者にいくつかの病院を紹介され、その中から選んだが、病院のサイトでは詳しくは書いていなかった。

(4) 入院期間

- ・ 8 日間
- ・ 病院からは 1 週間程度と説明を受けていた。

2. 入院付添い状況について

(1) 病院側から依頼されたケースについて

① 入院付添いを求められた理由

- ・ 病院から付添いを求められたため。

② 病院からの依頼に対する納得感

- ・ 納得はしている。

③ 1 日あたりの時間数・内容等

- ・ 病院に宿泊し、24 時間付添いを行った。日中・夜間だけの付き添いという選択はできなかった。
- ・ 宿泊するにあたり、簡易ベッドにもなるソファがあったが、寝にくかったため患者と一緒にベッドで寝ていた。患者に酸素マスクが不要になってからは、ベッドを撤去してマットの上に布団を引いて寝ることが出来、大分寝やすくなった。寝具は貸し出しが無かったため持ち込んだ。
- ・ 付添い者の食事は病院では一切出ないため、朝に院内のコンビニで 3 食分買って病室

に持ち込んでいた。また、家族に荷物を持ってきてもらうついでに食事を持ってきてもらうなどもしていた。

- ・ 付き添い期間中、仕事は欠勤扱いとなった。
- ・ 入浴については、患者が入浴する時間に付添い者もシャワーを借りることができた。当初は患者が点滴をしていたため、看護師が患者の入浴介助を行っていたが、患者の容体が落ち着いてからは付添い者が患者と一緒に入浴することもできた。
- ・ 看護師がその場にいてもいなくても、付き添い者が患者に薬を飲ませていた。
- ・ チェックシートに食事の時間、薬の時間、便が出たか、睡眠時間、おむつ変更の回数を記入し、1日1回提出を行っていた。
- ・ 体温測定は付き添い者または看護師が行っていた。
- ・ 患者が酸素の測定器、酸素マスク装着をつけていたため、それが外れるなど、見ていて気になったら付添い家族がナースコールしていた。
- ・ 付添期間中（8日間）、1日半だけ夫と付き添いを交代した。コロナの影響でPCR検査で陰性が出ないと交代できなかったため、夫が自宅で検査キットで検査をし、結果を病院に持って行って付添いを認めてもらった。付添い入院を開始する際に自身もPCR検査をした。
- ・ 完全個室で付き添いをしていたため、他の入院患者等との交流は無く、様子はわからなかった。
- ・ 病院に保育士が常駐しており家族が付添い出来ない時間は子供をみてくれていた。また、病状が安定したらプレイルームで遊ばせることができたが、コロナの影響かほかの子供は居らず貸し切り状態であった。
- ・ 家族がどういう状況で入院しているか知りたいから付添いはしたいと思うが、もしもう1人子供がいた場合は付き添いしたくてもできない可能性があると思った。

3. 病院からの説明について

(1) 誰から、いつ、どのような方法で、どのような説明を受けたか

- ・ 入院が決まって病室に移動してから、看護師から入院付添いについて口頭と資料で、5分程説明があった。主に病院のルールについて説明してもらった。
- ・ 食事、有料の寝具の貸し出しについて、入浴について説明を受けた。またコロナ関連で、病室から出られないことや、面会禁止中の荷物の受け渡しについて説明を受けた。

(2) 説明内容は十分理解できたか

- ・ 説明について理解はできた。十分納得していたわけでは無いが、従わざるを得ない状況であった。
- ・ 預けている保育園で患者が発作を起こし、急遽入院することになった。初めは小さなクリニックに運ばれたがすぐに大きな病院に移動することになり、患者の病状によ

り荷物を取りに帰ることもできないまま入院となった。

(3)どのような説明があれば良かったか

- ・ 特にない。

以上

患者家族 D

1. 基本情報

(1) 患者の年齢

- ・ 3 歳未満

(2) 家族等の年齢、患者との関係

- ・ 30 代
- ・ 父親

(3) 病院選定理由

- ・ 風邪かと思ってかかりつけのクリニックを受診したところ、入院を勧められたため、クリニックの医師の紹介で入院先を決めた。
- ・ 紹介先の病院は設備が整っているとのことだった。

(4) 入院期間

- ・ 4 日間の内、1 日のみ妻と交代した。
- ・ 最初に入院期間について明確な説明はなく、1 週間～10 日くらいと言われていた。
- ・ 病状も安定し、医師からの許可もあったため早めに退院した。

2. 入院付添い状況について

(1) 病院側から依頼されたケースについて

① 入院付添いを求められた理由

- ・ 患者が小児であったため付添いを求められた。
- ・ 患者には兄弟がおり、兄弟の生活を変えないよう母親が家に残り、父親の自分が仕事を休んで付添いをすることにした。

② 病院からの依頼に対する納得感

- ・ 小さい子供なので付添いに関しては仕方ないという気持ちであった。
- ・ コロナ禍で交代がほとんどできなかったのはいたしかたないと思っている。

③ 1 日あたりの時間数・内容等

- ・ 終日付添いを行った。基本的にはお風呂、食事のとき以外は患者に付きっきりの状態であった。
- ・ 看護師からはベッドから子供が落ちないように見ることや、薬や食事のチェック、急変や困ったことがあれば知らせるなどを願いされていた。食事、排便、薬、睡眠に関して

はチェックシートを提出した。

- ・ 薬を飲ませること等については退院後の練習として途中から付添い者が行った。
- ・ 看護師は定期的に患者の容体のチェックをしに来ていた。
- ・ 家族が患者のそばを離れなければいけない際には保育士が子供の対応をしてくれた。子供の体調が良い時には別フロアのプレイルームで遊ぶ提案をしてくれた。
- ・ 朝、子供の食事が終わって、その合間で保育士に子供の面倒をみてもらい、コンビニに行って1日分の食事を買っていた。
- ・ 有料で簡易的な寝具の貸し出しがあったが、病室が狭く、治療に差し障りそうだったため、夜間は一人用のリクライニングチェア 2 つを並べて寝ていたが、なかなか睡眠がとれなかった。
- ・ 荷物の受け渡しは、コロナ禍のため看護師を通して行った。

3. 病院からの説明について

(1) 誰から、いつ、どのような方法で、どのような説明を受けたか

- ・ 医師・看護師から入院初日とそれ以降にも都度説明を受けた。
- ・ 口頭と書面で10～15分くらい説明があり、質問も受けてくれた。
- ・ 患者の状況や治療、薬について、またコロナ禍で交代での付き添いが難しいことなどについて説明された。
- ・ 付添いの交代は基本的に受け付けていなかったが、共働きで仕事の都合もあり、要望して対応してもらった。

(2) 説明内容は十分理解できたか

- ・ 納得はした。

(3) どのような説明があれば良かったか

- ・ 後になってから個室でクッション性のマットレスのようなベッドを引いて対応することもできたと聞いた。先に聞いておきたかった。

以上

患者家族 E

1. 基本情報

(1) 患者の年齢

- ・ 小学生

(2) 家族等の年齢、患者との関係

- ・ 60 代
- ・ 祖母

(3) 病院選定理由

- ・ 患者が 2 階から転落し、救急車でクリニックに搬送されたあと、クリニックが指定する病院に移動して入院となった。

(4) 入院期間

- ・ 患者の母親は仕事があるため 4～5 日間付添いし、それ以降の 1 か月半は自身が付添いを行った。
- ・ 患者の母親は相部屋で付添いを行ったが、付添いを交代する際に希望して個室に変えてもらった。

2. 入院付添い状況について

(1) 病院側から依頼されたケースについて

① 入院付添いを求められた理由

- ・ 患者が小学生低学年で精神的な不安が多いため、医師から付添いを勧められた。

② 病院からの依頼に対する納得感

- ・ 自身も付添いする方が安心するため納得した。

③ 1 日あたりの時間数・内容等

- ・ 終日患者のそばで付添っていたが、検温などは看護師が行った。
- ・ コロナ禍のため、付添い者を何度も交代することはできなかった。最初の付添い時の PCR 検査は無料だったが、交代などをしてまた病棟に入るときは別途料金を払って検査を受けなければならなかった。
- ・ 外部からの差し入れも OK だったが、PCR 検査後でないと病棟には入れない状況だったため、看護師に渡してもらっていた。
- ・ 寝具は持ち込み必須で、ソファベッドに敷物を敷いて寝た。病院から貸し出しもあったが、料金が高かった。

3. 病院からの説明について

(1) 誰から、いつ、どのような方法で、どのような説明を受けたか

- ・ 看護師から患者が入院するタイミングで付添い期間中の生活やルールの説明があった。
- ・ 口頭と書面で 15 分くらい説明を受けた。

(2) 説明内容は十分理解できたか

- ・ 理解した。

(3) どのような説明があれば良かったか

- ・ 特にない。

以上